



國立銀行條例
附成規

891



114
A1189

國立銀行條例目次

○緒言 第 一 條 至 第 四 條
○第一章 第 五 條 至 第 十六 條 銀行創立ノ方法創立証書銀行定款ノ差出方及ニ開業免狀ノ下附並ニ諸役員撰任方法等ノ事ヲ明カニス

○第二章 第 十七 條 至 第 廿 七 條 銀行資本金ノ制限公債証書銀行紙幣交收ノ割合並ニ其手續キ及ヒ引換準備金等ノ事ヲ明カニス

○第三章 第 廿 八 條 至 第 四 十 三 條 株式ノ分割株式没入株式主牒ノ記入株式ノ賣買及ヒ資本金増減等ノ事ヲ明カニス

大正十一年四月
農商部郵寄贈

大藏省

○第四章

并ニ其種類其通用ノ能力引換場所及
七燒捨等ノ事ヲ明カニス

○第五章

買並ニ貸附金ノ制限銀行紙幣並ニ株
式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事
ヲ明カニス

○第六章

ノ書躰並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ頁
責所有物ノ明細牒及ヒ営業時間等ノ
事ヲ明カニス

○第七章

株主總會ノ定規並ニ
格段決議ノ順序諸簿冊ノ點檢及ヒ檢

査ノ手續ヲ諸報告差出方等ノ事ヲ明
カニス

○第八章

利益金分割ノ方法及
ヒ積金割合ノ規定ヲ明カニス

○第九章

銀行ハ官廳ノ為換方
ニ從事スル事並ニ外國銀行ト聯合ス
可カラサル事ヲ明カニス

○第十章

銀行役員職務上一般
ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

○第十一章

紙幣及ヒ諸手形類ノ
發行并ニ銀行紙幣ノ贋造描改及ヒ其
版板ノ彫刻等禁止ノ事ヲ明カニス

○第十二章

銀行ニ於テ其紙幣引
取

換ヘテ拒ミシ時ノ處分。特別監督。役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債証書ノ没入及ヒ紙幣引換ヘ等ノ手續キヲ明カニス

○第十三章 第百二条ヨリ第百六条ニ至ル 銀行平穩鎖店ノ手續キ及ヒ其紙幣引換ヘ方等ノ事ヲ明カニス

○第十四章 第百七条ヨリ第百八条ニ至ル 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス

○第十五章 第百九条 銀行納税ノ事ヲ明カニス

○第十六章 第百十條 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ銀行紙幣ヲ受取り引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ営ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

○緒言

第一條 此條例ハ何事ニ付テモ都テ之ヲ國立銀行條例ト稱スヘシ

第二條 此條例ハ明治 年 月 日ヨリ施行スル者トス

第三條 此條例施行ノ後ハ凡ソ五人以上ノ人員申

合セ會社又ハ組合ヲ結ビ此條例第五十二條ニ掲
クル所ノ事業(一)ニノ事業タリ(二)ヲ經營スル者ハ
現存又ハ將來ノ別ナク總テ紙幣頭ノ承認許可ヲ
得ルニ非レハ之ヲ創立シ又ハ營業スルヲ許サス
第四條 此條例施行ノ後ニ於テ此條例第五十二條
ニ掲クル所ノ事業(一)ニノ事業タリ(二)ヲ經營スル
會社又ハ組合ハ此條例成規ヲ遵奉シ更ニ紙幣頭
ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ轉業シテ國立銀行ヲ
創立スルヲ得ヘシ

○第一章 銀行創立ノ方法、創立證書、銀行定款
ノ差出シ方及ヒ開業免狀ノ下附并
ニ諸役員撰任方法等ノ事ヲ明ニス
第一條 此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セシムル
欲

スル者ハ何人ヲ論セバ外國人ヲ除クノ外五人以
上結合シタル人々成規第一條ニ掲クル所ノ手續
ヲ以テ其創立願書ヲ大藏省ノ紙幣寮ニ差出スヘ
シ紙幣頭之ヲ檢案シ相當ト思慮スルニ於テハ之
ヲ大藏卿ニ稟議シテ其銀行創立證書及ヒ銀行定
款ノ差出シ方ヲ命スヘシ

第二條 右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名
ヲ創立證書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經テ其創立証
書ニ紙幣頭ノ承認許可ヲ受ルニ於テハ此條例ニ
規定セル箇條ヲ遵奉シ以テ國立銀行ヲ創立スル
ヲ得ヘシ而シテ其創立證書ニ掲載スヘキ件々ハ
左ノ如シ

第一 銀行ノ名号

但シ此名号、紙幣頭、承認許可ヲ得
テ之ヲ公稱スヘシ

第二 銀行ノ本店及ヒ支店(若シ之レアラハ)ヲ
置クヘキ場所

第三 銀行ノ資本金額及ヒ株數

第四 銀行營業ノ年限

第五 株主ノ姓名、住所、属族、職業(若シ之レアラ
ハ)及ヒ其引受ケタル株式ノ番号、箇數

第六 此創立証書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事
業ヲ営ナシ株主一同ノ利益ヲ謀ルタメ
取極メタル旨

第三條 右創立証書ハ其株主等各記名調印シ之ニ
壹錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ眞書鈐印

創立証書、印紙
貼用并其他ノ件

ヲ受タルモノタルヘシ新ク從事シタル創立証書
ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右
創立証書ノ箇條ヲ確守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵
奉スル者トスヘシ

創立証書更
改ノ件

第四條 右創立証書ノ箇條ヲ更正スルニハ其社
ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認許可ヲ得ルニ於
テハ之レニ從事スル事ヲ得ヘシ但シ其事件ハ即
チ資本金^金増減及ヒ本店轉移或ハ支店開設等ノ如
キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル箇條ハ最初
右創立証書中ニ記載セシ箇條ト同シク確守スヘ
シ且ツ右ノ箇條ハ其創立証書ノ本紙正写ノ別ナ
ク之レヲ綴ジ又ハ添附シ置クヘシ
但シ右ノ外創立証書中ノ箇條ヲ更正スル

定款印紙貼
用并其他件

ヲ得テ可シ

第五條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立証書ニ必ズ銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ即チ成規第六條ニ掲クル所ノ雛形ニ準據シ其箇条ヲ悉皆又ハ若干ノ記載シ創立証書ト同様株主一同之レニ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但シ此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ノ得紙幣寮ノ官印ヲ受クルノミニニシテ其管轄地方長官ノ真書鈐印ヲ乞フニ及ハサルヘシ

定款ノ箇条
ヲ更正増加
及廢止スル件

第六條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定款中ニ掲ケタル諸款ヲ更正増補シ及ヒ之レノ廢

止スルヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正増補シタル箇条ハ最初右定款中掲載セシ箇条ト同シク確守スヘシ且右箇条ハ其定款本紙正字ノ別ナク之レヲ綴込ニ又ハ添附シ置クヘシ

創立証書并ニ
紙幣頭差出シ方件

第七條 創立証書并ニ銀行定款ハ本紙壹通正印二通都合三通宛ヲ製シ而シテ創立証書ハ其管轄地方長官ノ真書鈐印ヲ受ケ銀行定款ト共ニ之レヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

開業免狀下
付件

第八條 紙幣頭ハ右創立証書及ニ銀行定款ヲ領受シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定スル所ノ割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲナセシヤ否ヤノ状實ヲ検査シ且株主等ノ正不正其他百取ノ事務ヲ視察シ不都合アルニアラサレハ之レヲ大藏卿ヘ

銀行開業ノ件

開業免狀創立
証書定款ハ確
証トセラルノ件

稟議ニ開業免狀ヲ下附スヘシ
但シ創立証書銀行定款共本紙ハ記録寮ニ納メ
正寫壹通ハ紙幣寮ノ簿冊ニ綴ルニ壹通ハ紙幣
寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ之レヲ其銀
行ヘ下附スヘシ

第九條 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一團ノ會
社トナリ何々國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規
定シタル箇条ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營
スルヲ得ヘシ

第十條 此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印ヲ加ヘタ
ル開業免狀創立証書銀行定款ハ何レノ裁判所何
レノ官廳ニ於テモ之レヲ正確ナル證據トシテ採
用セラルヲ得ヘシ

創立
定款
林主(付典スル)
件

第十一條 創立証書銀行定款ノ寫又ハ版本等用意
分配ノ手續了ルノ後各株主ヨリノ要需アルニ於
テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以テ之レヲ付
典スヘシ若シ銀行右付典ノ事ヲ怠慢スルニ於テ
ハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ起エザル罰
金ヲ納ムヘシ

營業期限并
ニ延期ノ件

第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店
其他ノ事故アルニアラサレハ開業免狀ヲ受ケレ
日ヨリ二十ヶ年ノ間其營業ヲ取續クヲ得ヘシ
右期限ヲ過キ尚營業セント欲スルニ於テハ其趣
ヲ紙幣頭ヘ申立テ更ニ免許ヲ受クヘシ
第十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等
ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ノ刻ニ諸從員ノ

社号并ニ社印
用法ノ件

銀行諸役員
兼任ノ件

取締役所特
株式ノ制限

印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ニ三寮
ニ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟約
定保証及ヒ報告往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ
都テ其社号ヲ用ヒ社印ヲ鈐スベシ

但レ報告約定保証等ノ如キ文書ニハ頭取取締
役員及ヒ支配人ノ名印ヲモ加用スヘシ

第十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役員ヲ
始メ支配人書記方出納方計算法簿記方其他適宜
ノ役員ヲ撰任シ其職制權限進退及ヒ頭取取締役員
交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取極メ之ヲ銀行定款
中ニ掲載スヘシ

第十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役員ハ必ス
自カヲ以テ成規第五十一條ニ規定スル所ノ株數
ヲ所持シタル者ニシテ其總員ハ五人以上四人
ハ頭取タルニシテ而シテ其四分ノ三ハ其銀行創立
ノ地ニ於テ上任前一ヶ年以上在任シタル者ニ限
ルヘシ

頭取取締役
兼任ノ件

第十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役員ハ
上任ノ節ニ誓詞ヲ為シ其事務ヲ施行スルニ忠實
公平ヲ以テシ且ツ此條例中ノ要旨ニ決シテ背戾
セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受
ケ之ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シ
テ寮中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

○第二章 銀行資本金ノ制限公債証券銀行紙
幣交收ノ割合并ニ其手續及ヒ引換
準備金等ノ事ヲ明クス

第十七條 此條例ヲ遵奉スル国立銀行ノ資本金額ハ拾万圓ヨリ下ル可カラス尤人口拾万人以上ノ地ニ於テハ二十万圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

但シ時宜ニヨリ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ノ稟議ヲ經ルニ於テハ五万圓以上十萬圓未滿ノ資本金ニテモ創立ヲ許スヲアルヘシ

第十八條 此條例ヲ遵奉スル国立銀行ハ其資本金額十分ノ八(即チ十萬圓ナレハ八萬圓)ヲ政府ヨリ發行スル所ノ公債証書ニテ此條例第十九條ニ掲クル所ノ割合ニ從ヒ實價(即チ市中賣買ノ相場)ヲ以テ之ヲ出納寮へ預クベシ尤右公債証書ハ四厘以上利付ノ者ヲ限ルヘシ

但シ右ノ公債証書市中賣買ノ相場低下スル時ハ紙幣頭ニ更ニ之レヲ其銀行ニ命ジテ其不足ノ割合額數ニ滿タシムヘシ

第十九條 右公債証書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出納頭ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置クヘシ而シテ若シ此公債証書ノ内國債寮於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債証書ヲ納メテ之ヲ引換ニ可シ

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其資本金額十分ノ二ヲ通貨ヲ以テ銀行ニ積置キ前条ニ掲クル所ノ公債証書ノ代リトシテ紙幣寮ヨリ受取ル銀

本金ノ増減ニ
從テ引換ノ準備
等其割合ニ準ズル
ノ件

行紙幣ノ引換準備ニ充ツベシ故ニ其銀行紙幣發
行ノ際ニ於テハ常ニ其發行高ノ四分一ノ割合ヲ
以テ準備金ヲ現存スルヲ定度トス尤銀行紙幣發
行ノ増減ニ隨ヒ其準備通貨モ亦タ便宜之レヲ増
減之レヲ資用スルヲ得ヘシ
但レ右紙幣ノ引換多クシテ四分一ノ準備ニテ
引換方差支ユルトアレハ別ニ通貨ヲ加ヘテ之
レヲ引換ヘ変テ之レヲ拒ミ又ハ之レヲ怠ル可
カラス
第二十一條 此條例第四十條四十一條ニ掲クル所
ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ増減スルトアルニ於テ
ハ前条掲クル所ノ公債証書并ニ銀行紙幣引換ノ
準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ増減ス可シ

公債
行紙幣
割合ノ件

第二十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ資本金
集合ノ手續ヲ了リタル後テ公債証書ヲ納メテ同額
ノ銀行紙幣ヲ受取り其引換準備金ヲ積立ルノ割
合即チ左ノ如シ
例ハハ資本金拾万圓ヲ以テ創立スル銀行ナレ
ハ
八万圓ハ 四朱以上利付ノ公債証書ヲ出
納寮ニ納メ同額ノ銀行紙幣ヲ
紙幣寮ヨリ受取ルヘシ
貳万圓ハ 通貨ヲ以テ銀行ニ積置キ銀行
紙幣引換ノ準備トナスヘシ
但レ此條例第三十條ニ掲クル所ノ規定ニ
從テ資本金ヲ集合スル片ハ其入金毎ニ右

銀行紙幣
領受ノ件

ノ割合ヲ以テ公債証書銀行紙幣支取ノ手續ヲナスヘシ

第二十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債証書ヲ出納察ニ納メ其受取証書ヲ領受シタル後々同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣寮ヨリ受取り之ニ頭取支配人等ノ名印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本トナスヘシ

公債証書
勘査ノ件

第二十四條 右公債証書ノ請取証書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債証書ノ勘査ニ付テハ該両寮頭互ニ其簿冊ヲ開キ須ラク注意ヲ尽シ詳明ニ之ヲ記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

公債証書
改入
年々改入ノ件

第二十五條 此條例第十八條ニ掲ケル所ノ出納頭

ニ預ケタル公債証書ハ毎年一度又ハ數度銀行ノ役員出納寮ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類員額等相違ナキニ於テ改入ハ改入ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭へ差出スヘシ但シ右改入出納寮へ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

公債証書
換納ノ件

第二十六條 右公債証書ハ銀行ノ都合ニヨリ四半以上利付ノ他ノ公債証書ヲ以テ之レカ引換ヲ稟請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナレトセハ其趣ヲ出納頭ニ通知シ之ヲ交換下附スヘシ

但シ其引換ヘタル趣并ニ其公債証書ノ種類金額等ハ紙幣出納両寮ノ簿冊ニ詳記スヘシ
第二十七條 右公債証書ヨリ生スル年々ノ利息ハ

公債証書
利息ノ件

株式分割
定規

其銀行之ヲ受取リ毎年銀行ノ利益精勘定ノ内ニ
加ヘテ之ヲ株主一同へ分割スヘシ

但シ銀行ニ於テ其銀行紙幣引換ノ下ヲ急ルカ
又ハ此條例ニ背戾スル下アレハ紙幣頭ハ其利
息ヲ取押ユル下アル可シ

○第三章 株式ノ分割 資本金入金ノ割合 株式
没入、株主牌ノ記入、株式ノ賣買及ヒ
資本金増減等ノ事ヲ明カニス

第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株
式ニ分割シ百田又ハ五拾田又ハ廿五田ヲ以テ一株ト定
ムヘシ尤モ一株百田ニ分割シタル銀行ノ株式ハ悉皆百
田ノ金高タルヘシ五十田廿五田ノ株式モ亦之ニ準スヘシ
但シ十万田以上ノ資本金ヲ以テ創立スルル銀行ナ

株式所有ハ
其望ニ任スル

レ八百田又ハ五十田ヲ以テ一株ト定ムヘシ又十
万田未滿五万田マテノ資本金ヲ以テ創立スル者
ナレハ五十田又ハ廿五田ヲ以テ一株ト定ムヘシ

第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ
各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持スルヲ得ハシ而
シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ハラズ
總テ其所持株高相當ノ權利ヲ有シ其銀行營業ニ
付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ

但シ大藏省ノ官負其他ノ官負トモ此銀行ノ事
務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サズ

第三十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業
免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクモ資本
金總額ノ五割即チ半高ハ必ス之ヲ銀行ニ入金ス

資本金入金
割合ノ件

資本金集合
高届唇差出
方ノ件

へし而して他ノ五割ハ資本金總額ノ一割(即チ十分一)ヲ以テ月賦ト定メ開業免状ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

第三十一條 右資本金ノ月賦入金毎トニ其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十三條ニ準據シ資本金集合高届唇ヲ紙幣頭へ差出スヘシ

株式没入ノ件

第三十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等ニ於テ其株ヲ没入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣却ス而シテ其入用ヲ差引キ尚ホ過金アルハ之ヲ其元株主へ返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取りタル株主モ亦他ノ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

株式消除ノ件

第三十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アラサル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ没入シテ其株ヲ消スヘシ尤此消株ニヨリ資本金額此條例第十條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スル片ハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ充タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ル片ハ紙幣頭ハ其銀行ニ鎖店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘシ

株主牌ノ製造及日記ノ方

第三十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牌ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

- 第一 各株主ノ姓名住所屬族職業(若シ之レアラハ)
- 第二 各株主ノ所持セル株式ノ番号箇數

株主名簿ノ記
名ノ件

第三 入社ノ年月日

第四 退社ノ年月日

第三十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ創立証書ニ記名スル者ハ即チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主名簿ニ各々其姓名ヲ登記スヘシ且ツ其他何人ニテモ(外國人ヲ除クノ外)爾後其銀行ノ株主タラシムルヲ同意シ隨テ其姓名ヲ株主名簿ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

第三十六條

右株主名簿ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主名簿ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閲スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閲ヲ拒ミタルハ

株主名簿檢閲
ノ件

株主名簿ノ記入
ヲ修正スルノ件

ハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出し紙幣頭ハ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官更ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルヲアルヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ壹ケ年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ右檢閲ヲ停止スルヲ得ヘシ

第三十七條

右株主名簿ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人ノ力為ノ妨碍ヲ受クルニ於テハ其事由ヲ各面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出し紙幣頭ハ

株式賣買議
共ノ件

株式賣却議
共ノ件
ニ於ケル各代人ノ
權利

資本金増加
ノ件

ノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭
ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

第三十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株式ハ成規

第二十七條三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之

ヲ賣買讓與スルヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ其旨

ヲ報知スルニ於テハ一年中十日ニ過

キサレハ何時ニテモ其株式ノ賣買讓與ヲ禁ス

ルヲ得ヘシ

權利ヲ有スヘシ

第四十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決

議ヲ經テ紙幣頭ノ兼認ヲ得ルニ於テハ其資本金

額ヲ増加スルヲ得ヘシ而シテ右増加スル資

資本金減
少ノ件

本金額ノ制限ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ紙幣頭之

ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ増加スルニハ紙幣

頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤モ

全ク入金済ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其増

加証書ヲ差レ出スヘシ

第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金

額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ

紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ

得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規

定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣頭ノ

承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其

施行ノ日限ヨリサナクモ三ヶ月以前ニ於テ資本

金ノ減少員額ト其残り資本金額トヲ記載シタル

大藏省

株式賣買議
共ノ件

株式賣却議
ニ於ケル名代人ノ
權利

資本金増加
ノ件

ノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭

ノ額ヲ減少スル

ハ其額ニ於テハ其額ノ半額ニ至ルニ至ラズ

モ其額ノ半額ニ至ラズモ其額ノ半額ニ至ラズ

モ其額ノ半額ニ至ラズモ其額ノ半額ニ至ラズ

第三十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去ス

ルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却譲與スル等ノ事

アル片ハ後令此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト

雖モ記名調印等ノ事ニ至リテハ猶モ株主同様ノ

權利ヲ有スヘシ

第四十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決

議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金

額ヲ増加スルヲ得ヘシ而シテ右増加スル資

資本金減
少ノ件

本金額ノ制限ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ紙幣頭之

ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ増加スルニハ紙幣

頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之レニ從事スヘシ尤モ

全ク入金済ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其増

加証書ヲ差レ出スヘシ

第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金

額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ

紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之レニ從事スルヲ

得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規

定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣頭ノ

承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其

施行ノ日限ヨリサナクモ三ヶ月以前ニ於テ資本

金ノ減少員額ト其残り資本金額トヲ記載シタル

大藏省

資本金減少
際シ貸金及ヒ
預メ金アリ者ノ
權利

報告ヲ製シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ其預リ金アル
得意先へ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ
其銀行所在ノ地ニ行ハル、三種以上ノ新聞紙ヲ
以テ三箇月以上毎日之ヲ公告スベシ

第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前条ノ如
ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行へ
貸シ金預メ金等アル者ハ未タ其仕拂期日至ラス
ト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナ
レハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之レカ償却ヲ
乞フノ權利アルヘシ

第一 凡ソ定期預メ金アル者ハ其元金并ニ当
日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス
第二 其他期限未滿タリトモ凡ソ銀行ヨリ受

資本金減少
許可ノ件

取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ
其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ残金高ノ
ニテ請取ルノ權利アリトス

第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四
十一條四十二條ニ掲クル所ノ諸般ノ手續ヲ了ル
ニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少証書ヲ紙
幣頭へ差出スヘシ若シ右第四十一條四十二條ノ
規定ニ背反シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ
及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムトアル片ハ紙幣
頭ハ右資本金減少証書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

第四章 銀行紙幣發行ノ定限并ニ其種類其
通用ノ能力引換場所及ヒ燒捨等ノ
事ヲ明ニス

銀行紙幣
發行ノ定限

銀行紙幣
製造ノ件

銀行紙幣
種類

銀行紙幣
下付ノ件

銀行紙幣
能力

第四十四條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル所ノ國立銀行ヨリ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ハ概子壹億圓ヲ以テ定限トス可シ

第四十五條 此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製造ノ事務ヲ董轄シ極テ其紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク屢摸ノ弊ヲ豫防スルノ術ヲ尽シテ以テ之レニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ紙幣寮ノ費用タルヘシ
第四十六條 右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓。二圓。五圓。十圓。二十圓。五十圓。百圓。五百圓。八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ製造下附スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額ノ五割ヨリ多カラサルヘシ

第四十七條 右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債証書ヲ抵當トシテ發行スルノ旨趣及ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿并ニ出納頭記録頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省并ニ銀行ノ記号番号ヲ押捺シテ紙幣頭之ヲ其銀行ニ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之レニ其頭取支配人ノ名印ヲ加用スヘシ

第四十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行會社其他ヲ論セズ日本全國何レノ地ニ於テモ租稅運上貸借ノ取引俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ正金同様通用スヘシ

銀行紙幣
引換ノ件

但シ公債証書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用弁ル
ヲ許サス

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨ
リ發行スル所ノ銀行紙幣ハ其銀行ノ本店ニ於テ
之ヲ引換ユヘシ

但シ支店ヲ設置スル銀行ハ其銀行ノ都合ニ依
ル本店ノ外支店ニ於テ亦其引換ニ從事スルヲ
得ヘシ

第五十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所
ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨テ
其他不正ノ所為ヲナス者アルニ於テハ國法ニ從
テ之ヲ罰スヘシ

第五十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル

銀行紙幣ヲ
拒ミタル者ニ於
ケル處分ノ件

損壞銀行紙幣
引換并ニ燒捨
ノ件

所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用ニ難キ
モノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之
ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭ハ差出し
其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤モ右交換銀行
紙幣ノ種類記号番号金額等ハ紙幣寮ノ公書及ヒ
銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨ
リ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ察員ヲシテ銀
行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ
其趣ハ尚右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ
但シ右燒捨ノ後ハ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以
テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

○第五章 銀行營業ノ本務諸賣買并ニ貸附金
ノ制限銀行紙幣并ニ株式抵當ノ制

大藏省

他ノ會社ノ株主
トナルヲ得サル
件及シ地所物件
賣買ノ制限

禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明ニス

第五十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ引受
貸シ抵当貸シノ別ナク貸付テ又ハ當坐并ニ定期
預リ金ヲ為シ又ハ為換ヲ取組シ又ハ為換手形約
束手形代金取立手形其他ノ証書ヲ割引シ又ハ公
債証書外國貨幣并ニ金銀銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ
保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナ
スヘシ

第五十三條 右營業本務ノ外銀行ハ地所家屋其他
物件ノ賣買ヲナス可ラス又職工作業ノ功ヲ興シ
及ヒ此等ノ功ヲ興ス會社ノ株主トナルヲ許サス
尤モ左ノ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家
屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取り又ハ之ヲ所持

スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但シ

銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一 銀行ノ營業ムヘキ為メ緊要ナル地所家
屋ハ之ヲ買取り之ヲ所持シ之ヲ賣却フ
ヲ得ヘシ

第二 滞貸金ノ抵当トシテ質物ニ取りタル地
所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣
却フヲ得ヘシ

第三 貸金返済ノ約定日切トナリテ借主ヨリ
返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物
件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣却フ
ヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵当又ハ質物トナリシ

大藏省

地所其他物
件賣拵期限

貸附金
制限

モノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒト
ナリタルモノカ又ハ之ヲ引取りタルモノ
又ハ右質入レノ流込トナリタルモノ
又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返済スルタメニ
賣物ニ出レタル地所物件ハ之ヲ買取り
之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得
マシ

第五十四條 前條掲クル所ノ款項申銀行營業ノ為
ノ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取
リ又ハ買取りタル地所物件ハ少ナクモ十ヶ月以
内ニ於テ之ヲ賣拵フベシ
第五十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附ル所
ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一ヲ

銀行紙幣及
株式ノ抵当并
賣買ノ制限

預リ金ノ準
備

限リトナスヘシ

第五十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣
ヲ抵当又ハ質物トシテ借金ヲナス可カラス又銀
行ノ株式ヲ抵当ニ取りテ貸付金ヲナス可ラス又
其株ノ買主トナリ又ハ其株主トナル可ラス然レ
モ貸附金ノ滞リニテ銀行ノ損失トナルコトアレハ
止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取り又ハ買取ルコトヲ得
ヘシ尤モ其株ハ遲クモ六ヶ月以内ニ於テ之ヲ賣
拂フベシ

第五十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ
預リ金ヲ他ヘ運轉流用スルニハ須ラノ之カ制限
ヲ立テ其預リ金總額ノ内少クモ二割五分即チ十
分ノ二五ヲ引残シ之ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ

大蔵省

發行紙幣準備金
超過スルハ
件

金庫中ニ積立置クヘシ尤内一割ハ政府ノ公債証
書ヲ實價ヲ以テ積立ルヲ得ヘシ
但シ此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同
スヘカラス

第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ為
ノ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此條例第二十條ニ規
定ニタル準備金ノ割合ヲ超過ス可ラス若シ此割
合ヲ超過シテ發行スル片ハ紙幣頭ハ之ヲ督責シ
テ速カニ其準備金ヲ増加シ規定ノ割合ニ滿タシ
ムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケ
シ日ヨリ三十日ヲ過テ尚ホ増加スルコトヲ怠ル時
ハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受人
ヲ命スヘシ

準備金不足
際ニ株主等
時價辨スル
夏支

第五十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ銀行紙
幣ノ交換或ハ預リ金ノ返済又ハ為換手形約束手
形等ノ仕拂ヲナスニ當リ兼テ積置キタル準備金
ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサル片ハ其銀行ハ株主等
ハ各其所持ノ株數ニ應ジ別ニ其銀行ノ株主等ハ
各其所持ノ株數ニ應ジ別ニ出金シテ一時之ヲ償
辨スルノ責ニ任スヘシ

但シ此出金ハ全ク一時償辨ノタメニシテ其株
金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之ヲ各株主
ハ返済スヘシ

○第六章 銀行名号ノ掲牌社印ノ昏跡並ニ
諸手形ニ於ケル銀行ノ負責所有
物ノ明細帳及ヒ營業時間等ノ事

銀行名号ノ
掲牌及社印
書跡

明カニス

第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書跡ヲ以テ其名号ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ銀行ノ店前最モ見易キ處ニ掲クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告并ニ諸公告、諸証書、諸手形、諸切手ノ類ニ至ルマテ凡ソ其名号ヲ用フル所ノ者ハ亦同シク讀易キ書跡ヲ用フヘシ

第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前条ノ如ク其社号ヲ掲ケサル片ハ銀行ハ其時間一日ニ付五回ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且ソ其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ為サシメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ若シ又銀行ノ頭取取締役支配人其

銀行名号ノ掲
牌及社印用法
ノ規定ニ依リタル
零分

銀行ノ名号ヲ
用ヒタル諸手形
ハ銀行其責任
スルノ件

他ノ役員又ハ何人ニテモ前条ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用ヒ或ハ人ヲシテ之ヲ用ヒシメ又ハ前条ノ規定ニ悖リタル社号ヲ以テ報告書ヲ捺シ或ハ之ヲ捺セシメ又ハ為換手形、約束手形、切手、証書、注文書、受取証書、受合状等ニ至ル迄凡ソ其名号ヲ用ユル者前条ノ規定ニ悖リテ記名調印ニ又ハ調印セシムル片ハ拾回ヨリ少ナカラズ五十回ヨリ多カラザル罰金ヲ納メシメ且ソ右等為換手形、約束手形、切手、注文書等ノ表面ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡サ、ル片ハ其規定ニ悖リタル役員等自費ヲ以テ右持主ニ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第六十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行其名号ヲ以テ為換手形、約束手形、ヲ振出し又ハ之ヲ引受ケ又或

所有物ノ明細帳
及ニ其取投規定
ニ依リ之ノ處分

ハ之レニ裏書シタルモノ、如キハ仮令右等ノ取
扱何人ノ手ニ出ルト雖此入苟モ其銀行ノ命任
ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其
銀行ノ為メニ取扱ヒシモノト見做スヘシ

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財産
（動産不動産ノ別ナク）ノ種類員數ハ勿論其授受賣
買及ヒ質入、借入、委託其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ
記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ挙アル毎トニ其事由
并ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受托者等ヲ遺
漏ナク記載シ其時々頭取取締役等之レニ檢印シ
常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閲
ニ供スヘシ○若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所
有財産ヲ質入、借入シ又ハ之ヲ委託スル等ノ事ア

營業ノ時間

ルニ當テ其銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ
捨置キ又ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員
ハ五十四ヲ踰ハサル罰金ヲ納ムベシ
但シ右所有財産ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナ
ル証據トシテ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テ
モ採用セララル、ヲ得ヘシ

第六十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ
其本店支店共定式（又ハ臨時）休暇日ヲ除クノ外毎
日午前第九時ヨリ午後第三時マテタルヘシ尤モ
銀行ノ都合ニヨリ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ
其營業時間ヲ変更スルヲ得ヘシ而シテ其趣ハ新
聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ
但シ為換并ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式（又

ハ臨時休暇日ニ當ルモノハ其翌日之ヲ仕拂フ
ヘシ

○第七章

株主總會ノ定規并ニ格段決議ノ順
序諸簿冊ノ點檢及ヒ檢査ノ手續諸
報告差出方等ノ事ヲ明カニス

第六十五條

此條例ヲ遵奉スル銀行、總會ハ毎年
少クトモ兩度家之ヲ執行スヘシ尤モ臨時ノ事件
ヲ評決セレカ為ノ執行スル所ノ臨時總會ハ此限
リニアラス

第六十六條

此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會
ニ於テ次條ニ掲載セル方法ヲ以テ執行セシ格段
決議ニ於テハ其銀行定款中ニ記載シタル事件箇
條ヲ變更訂正スルヲ得ヘシ

第六十七條

凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議
案ヲ出シ其銀行株主^{臨時}總會^{臨時}本人代人ヲ論セス四
分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大躰ヲ決定シ隨
テ其旨趣ヲ詳述シテ之カ報告ヲナシ後テ十四日
以外一ヶ月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ
總會ニ於テ其臨席シタル株主總會ノ同意セル發
言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格
段決議ト稱スヘシ

第六十八條

凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件
ハ其旨趣顛末ヲ記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ謄
写シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日^{郵便}便^送送日數
ヲ除クノ内ニ之ヲ紙幣頭へ差出シテ其承認ヲ受
クベシ○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出

格致決議ニ於テ
確定シタル箇條
ノ字ヲ分賦スル件

スララ怠ルニ於テハ右ノ日數以後(即十六日ヨリ)ハ怠慢時間一日ニ付十圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ且ツ其頭取取締役故サラニ之ヲ十サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシ片ハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第六十九條 凡ソ格致決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ(此條例第四條第六條ニ準據シ)現ニ之ヲ施行スルモノハ右ノ事件ヲ正シク記載シタル字ヲ各株主ヘ分賦スヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ詐偽ヲ記載スルカ又ハ字ヲ分賦セサルニ於テハ右字一通ニ付五圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ且ツ其頭取取締役故サラニ之ヲ為サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシ片ハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

諸簿冊ノ點檢

ムヘシ

第七十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ其銀行ノ營業時間中ナレハ何時ニテモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿冊及ヒ報告計表ヲ點檢スルヲ得ヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ株主ノ點檢ヲ拒ム片ハ五圓ニ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ且ツ其頭取取締役支配人タル者故サラニ之ヲナスカ又ハ知テ之ヲ見逃セシ時ハ右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

銀行ノ檢查

第七十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳知監督スル為メ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ定例臨時ノ別ナク官負ヲ命遣シ銀行一切ノ業務ヲ檢查セシムヘシ

但レ紙幣頭ハ時宜ニヨリ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀行管轄地方官ニ依テ其銀行實際ノ營業ヲ定例臨時ノ別ナク検査セシムルヲアルヘシ尤モ右検査ニ從事シタル地方官ハ其検査シタル旨趣ヲ詳記シ速カニ之ヲ紙幣頭ヘ報知スヘシ

第七十二條 右検査ノ官負ハ各銀行ノ本店又ハ支店トモ其営業時間中ナレハ何時ニテモ其用所ニ至リ詳密ニ其諸簿冊計表其他銀行一般ノ業跡ヲ検査シ其銀行役員ノ要務此條例成規ニ規定スル所ノ箇條ヲ遵守スルヤ否ヤヲ視察シ而シテ其検査ノ実況ト考案ノ旨趣ヲ書面ニ詳記シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第七十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル株主等ヨリノ諸願アルニ於テハ紙幣頭ハ官負ヲ命遣シ或ハ其管轄地方官ヘ委託シテ其銀行一切ノ業跡ヲ検査セシムルヲアルヘシ但レ其検査ノ実況ト考案ノ旨趣ハ之ヲ書面ニ認メ紙幣頭ヘ差出スヘシ紙幣頭ハ其写ヲ其銀行ノ本店并ニ此検査ヲ請願セシ株主等ヘ下附スヘシ

第七十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行此條例第七十一條第七十三條ニ規定スル所ノ検査官負ノ検査ヲ除クノ外他ノ検査ハ一切之ヲ受ケサルヘシ尤モ諸官廳ノ職掌上ニ於テ國法ヲ以テ検査スルカ如キハ此限ニアラス

定例報告書
并計表ノ件

第七十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ半季及ヒ毎月其事務計等ノ實際詳明ナル報告書并ニ報告計表成規第六十六條ニ規定スル所ノ種類ヲ製シ本店ハ頭取支配人支店ハ支配人并ニ計算法之レニ記名調印シテ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤モ其書式ハ紙幣頭ノ指圖ニ從フヘシ

但シ右半季報告書并ニ報告計表ハ銀行ヨリ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

臨時ノ報告書ニ
報告ノ差出方ヲ
急慢スルニ於テ
ノ優劣

第七十六條 右定例報告計表ノ外紙幣頭尚ホ要用ト思考スルヲアレハ銀行ニ命シテ臨時ノ報告計表ヲ差出サシムルヲアルヘシ○若シ銀行ノ頭取取締役支配人等右定例或ハ臨時ノ報告ヲ怠リ紙

紙幣頭ノ命スル日ヨリ郵便運送日數ヲ除ク十日以内ニ差出サシムル片ハ十日以外即チ十一日目ヨリハ一日ニ付五十圓ヨリ少ナカラズ百圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ

○第八章 利益金分割ノ方法及ヒ積金割合ノ規定ヲ明カニス

利益金分割ノ
方法及ヒ積金
ノ件

第七十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ半季毎トニ其銀行ノ總勘定ヲナシ其總益金ノ内ヨリ諸雜費并ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ金額(若シ之レアラハ)ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金トシ又此内ヨリ次條ニ規定セル積金ヲ引去リ其餘ノ金額ヲ以テ總株主ヘ分割スヘシ○尤モ右利益ノ計等ハ株主ニ分割セサル前十日以内ニ

積金割合規定

郵便傳送日数ヲ除ク紙幣額へ差出し其承認ヲ得
テ後々之ヲ株主一同へ通知シ且ツ新聞紙ヲ以テ
世上ニ公告シ而シテ之ヲ株主一同へ分割スヘシ
但レ慥カナル抵当物或ハ確實ナル引受人アル
貸附金ヲ除クノ外其返済期限ヲ過クルル六ヶ
月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滞貸金ト看做ス
ヘシ

第七十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其資本金額
ノ二割ニ至ルマテ毎半年其純益金ノ内ヨリ少
ナク凡一割宛ヲ引分ケ之ヲ積金トナシ以テ非常
ノ豫備ニ供スヘシ○右積金一旦二割ノ員額ニ至
ルノ後々若シ損耗其他ノ事故アリテ右割合ノ金
額ヨリ減少スル片ハ尚ホ其後毎半年其純益金ノ

内ヨリ少ナク凡一割宛積立到底右二割ノ員額ニ
復スヘシ

○第九章 銀行ハ官廳、為換方ニ従事スル
及ヒ外国銀行ト聯合スヘカテサレ
事ヲ明カニス

銀行ハ大藏省
其他ノ為換方
ヲ勤ムルノ件

銀行ハ外國銀
行ト聯合スル
ヲ得ルノ件

第七十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業
事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ各地方
官廳其他ノ為換方ヲ勤ムルヲ得ヘシ尤モ其勤
方ノ手續ハ爾時大藏卿ノ考案ニヨリ其筋ヨリ余
スル所ノ規定ヲ奉ヒテ以テ之レニ従事スヘシ
第八十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令
ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非レハ内外地
ニ設置スル所ノ外国ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行又

大藏省

銀行役員此
條例三背戻
スル處分

ハ交換所等ト虽凡ソ海外ニアルモノト相共ニ
聯合シ以テ為換ヲ取組ミ其他ノ營業ニ從事スル
トヲ得サルベシ

○第十章 銀行役員職務上一般ノ制禁及其
頁責ノ事ヲ明カニス

第八十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役
タル者ハ自ラ此條例ノ箇條ニ悖ル可カラズ或ハ
銀行ノ役員其他ノ者ヲシテ之ニ悖ラシム可カラ
ス若シ背戻ノトアルニ於テハ此條例ニ於テ其銀
行ハ附與シタル特殊ノ權利ハ悉ク之ヲ取上クハ
シ

但シ右頭取取締役此條例ニ背戻スル片ハ紙幣
頭ハ其地方裁判所又ハ其府縣ノ聽斷主任官員

此條例三背戻
スル銀行役員
ノ頁責

銀行役員ノ
制禁

ハ通達シテ之ヲ推知シ其罪ノ實アルニ於テハ

即チ其銀行ヲ鎖店セシムヘシ

第八十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役
等若シ此條例ニ背戻スルトアリテ夫レカ為ノ主
主又ハ其他ノ人ハ損失ヲ受ケシムル片ハ其損失
ハ頭取取締役等之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ

第八十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役
支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ
諸証書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄
用ス可カラス又頭取取締役ノ承認ヲ得ズシテ銀
行紙幣及ヒ預リ証書ヲ発行シ又ハ諸貸附ヲナシ
為換手形ヲ振出し又ハ証書及ヒ切手ノ引受ケラ
ナシ銀束手形為換手形諸証書貨物及ヒ公裁ニ

銀行役員其ノ
銀行ヨリ借リ
得ヘキ金額ノ
制限

引取タルモノヲ賣渡ス可カラス又銀行ノ諸簿
冊計表報告書其他ノ要書ニ詐偽ヲ記載ス可カラ
ス○若シ右ノ箇條ヲ犯シ其銀行又ハ他ノ銀行
會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或
ハ検査官員ヲ欺カシト謀ル者ハ皆テ國法ニ從テ
之ヲ罰ス可シ

第八十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役
支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從テ
尋常借り得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以
テ一切銀行ヨリ借受ク可カラズ又其銀行ヨリ借
財ヲナス者ノ為メ其証人又ハ受入トナル可カラ
ス○若シ右等ノ役員右ノ規定ニ背反シテ借財ヲ
ナレ又ハ証人受入トナリ又ハ入ヲレテ之ヲ為サ

銀行ノ名ヲ假
リ自用ヲ辨ス
ルハサレノ件

シメ又ハ之ヲ美諾スル等ノ事アル片ハ此等ノ役
員ハ十田ヨリサナカラス五十田ヨリ多カラサル
罰金ヲ納ムハシ且ツ其借財ノ金額ハ其規定ニ背
反セシ者ヨリ速カニ銀行ニ返済スヘシ

第八十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役
支配人其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以
テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨ス可カ
ラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲレテ犯サ
シメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆テ國法ニ從テ之
ヲ罰ス可シ

○第十一章 紙幣及ヒ諸手形類ノ発行並ニ銀
行紙幣ノ贋造描改及ヒ其版板彫
刻等禁止ノ事ヲ明カニス

裁省

銀行紙幣
諸手形類
及
模
止

第八十六條

此條例ヲ遵奉シテ創立シタル国立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ望次券持券人ハ仕拂フヘキ約束手形又ハ右類似ノ証書其他正金同様ニ通用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出し其引受ヲナシ之ヲ製シ之ヲ発行スルヲ禁ス若シ此等ノ数件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セス皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十七條

此條例ヲ遵奉スル国立銀行ヨリ発行スル銀行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ贋造ス可カラズ贋造セシム可カラズ贋造スルヲ勸テ又ハ之ヲ勸ム可カラズ贋造ト知りテ之ヲ通用ス可カラズ又ハ之ヲ通用セシム可カラズ又其文字畫圖ヲ描改ス可カラズ描改セシム可カラズ描改スルヲ助テ

銀行紙幣
及
描改
止

銀行紙幣
及
彫刻
紙品製造
止

第八十八條

右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ユル所ノ版板又ハ之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻ス可カラズ又ハ私ニ彫刻ヲ命ス可カラズ又右銀行紙幣ニ用ユル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製ス可カラズ又ハ人ヲシテ之ヲ製セシム可カラズ又ハ之ヲ私ニ所持ス可カラズ若シ前第八十七條及ヒ本條ノ数件ヲ犯ス者アルニ於テハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十九條

此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ発行シタル銀行紙幣又ハ為換手形約束手形其他証書ノ類ハ何人ニ限ラス之ヲ切捨キ又ハ切裂キ又ハ剥去

銀行紙幣
及
諸手形類
傷
模
止

銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミタル片共持主ヨリ申渡シ件

リ又塗抹シ又ハ孔ヲ穿テ又糊付ニスル等ノ下
ヲナス可カラズ又人ヲシテ此等ノ事ヲナシム
可カラス若シ此等ノ数件ヲ犯ス者アル片ハ其裁
判所又ハ府縣ノ聽斷主任官負ニ於テ之ヲ裁判シ
其金高十倍ノ償金ヲ銀行ヘ拂ハシムベシ

○第十二章

銀行ニ於テ其紙幣引換ヲ拒ミシ

時ノ處分特例監督役跡引受人等

ノ取扱方並公債証書ノ没入及

紙幣引換等ノ手續キヲ明カニス

第九十條

此條例第六十四條ニ規定スル銀行ノ營

業時間中其発行紙幣ヲ其本店又ハ支店銀行紙幣

引換ノ事務ヲ取扱フニ持參シテ通貸ト引換ヲ望

ムモノアル片其本店又ハ支店ニ於テ之ヲ拒ミ

又ハ之ヲ怠リテ其引換ヲナサハルニ於テハ右紙
幣ノ持主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官
廳ヘ差出し其銀行ヘ掛合方ヲ乞フヘシ○尤モ頭
取取締後其掛合方ヲ止ントスル片ハ其引換ヲ拒
ミシ旨趣及ヒ其金額月日等ヲ書面ニ認メ頭取又
ハ取締役之シニ記名調印シテ之ヲ紙幣持主ヘ渡
スヘシ然ル片ハ其持主ハ右書面ヲ地方官廳ヘ差
出スノシニシテ別ニ銀行ヘノ掛合方ハ乞ハサル
ヘシ

但シ預メ金ノ返却ヲ拒ミ又ハ怠リタル時モ亦

其預メ主タル者ハ本條ニ準シテ申請スルコトヲ

得ベシ

第九十一條

右地方官廳ニ於テ紙幣持主ヨリ銀行

紙幣ノ引換

銀行紙幣引換
換へ拒ミタル
片營業停止ノ
件

へ掛合方ノ各面ヲ領受スル片ハ直チニ其銀行へ
掛合フヘシ而レテ其掛合状及ヒ持主ヨリ差出し
タル各面ノ字ヲ紙幣頭へ送達シテ其由ヲ報知ス
ヘシ尤モ紙幣持主ヨリ頭取又ハ取締役ノ調印シ
タル各面ノ字ヲ受取リタル片ハ唯其各面ヲ紙幣
頭ニ送致スルノミニシテ銀行へ掛合ニ及ハサル
ヘシ

但シ紙幣頭へ報知セシ各面ノ字ハ其地方官廳
ニ藏メ置クヘシ

第九十二條 右地方官ノ報知ヲ得ルニ於テハ紙幣
頭ハ速クニ檢査ノ官負テ命遣シ其事實ヲ推知シ
其背戻ノ事實相違アラサル片ハ都テ其銀行ノ營
業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ尤モ其銀

營業停止ノ
後賣買ノ禁
止

行ニ屬スル金銀ヲ請取り及ヒ別段ノ預リ金ヲ渡
ス等ハ此限リニアラス

第九十三條 前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀
行ハ手形、証券類又ハ抵当物、地所等ヲ他人ニ賣
渡ス可カラス又他人ヨリ預リ金其他ノ物件ヲ預
ル可カラス若シ其銀行此箇條ニ背キ或ハ賣リ渡
シ又ハ預リ又ハ押方ノ引受ヲナスコトアルニ於テ
ハ紙幣頭ハ督責シテ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十四條 紙幣頭ハ更ニ大藏卿へ稟議シ特例ノ
監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究
シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ而シテ其背
戻ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ
出納寮ニ預ケ置キタル公債証書ヲ没入スヘキ旨

特例監督役ヲ
命遣シ及ヒ公
債証書ヲ没入
スルノ件

銀行銀店
其銀行紙幣
官府に於て引
換へる件

ヲ右報知ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ申渡シ其
公債証書ヲ取上クヘシ

第九十五條

右諸般ノ手續了リシ後紙幣頭ハ大藏

卿へ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者

ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨

ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハスヘシ

而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條

ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ新聞紙又ハ其他ノ手續

ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

第九十六條

紙幣頭ハ出納國債ノ兩頭ニ依議シ此

條例第九十四條銀行ヨリ没入スル所ノ公債証書

ヲ通貨又ハ其銀行紙幣ヲ以テ公債又ハ私債トモ

ト時大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ世人ニ賣渡ス可シ

没入公債証書
ノ賣渡及
ノ減却

特別監督役
報知ヲ得テ跡
引受人ヲ命ス
ル件

尤モ大藏卿ノ考案ニヨリテ右公債証書ヲ燒捨シ
テ政府ノ公債ヲ減却セント欲スル片ハ紙幣頭國
債頭出納頭ハ其命ニ從ヒ之ヲ燒捨ニ付スヘシ但
シ其趣ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公
告スヘシ

第九十七條

此條例第九十四條ニ掲クル處ノ特別

監督役ノ報知ヲ得シカ處分ヲナスニ於テハ紙幣

頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿

冊及ヒ各種ノ資産等ヲ取押シ諸貸付金立替金ヲ

取立タル上ニテ其裁判所又ハ府縣ノ聽斷主任官負

ニ謀リテ滞リ資金類及ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ

其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借財又ハ預リ金其外

ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應レテ之ヲ株主ニ割

銀行ノ借財
償却ノ要分

返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所存物ヲ
限リテ相當ノ分散ヲナシム可シ

第九十八條

右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ

紙幣頭ヨリ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ三ヶ月
間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ
右時限中ニ申出テシノ其事由ト証各類トテ檢案
シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸
方ニ賦当償却スヘシ

第九十九條

此條例ヲ遵奉スル国立銀行ノ株主等

ハ假令ヒ其銀行ニ損失又ハ其他ノ事故アリテ其
銀行鎖店分散スルトアルハ其株主等ハ其創立証
書ニ於テ規定シタル株式金額ノミヲ損失スルノ
外其分散ニ付テ別ニ賦当出金ヲ受ルノ責メ勿ル

銀行鎖店ニ付
株主負責ノ
制限

銀行鎖店ニ付
宿怨ノ件

一七

第一百條

紙幣頭ハ此條例第九十四條ニ掲クル所ノ

處分ヲナスニ際シ其銀行ヨリ尚ホ請願スルトアリ
テ其状実ヲ具陳スル時ハ監督役ヲ出セル日ヨ
リ三十日以内郵便通送日數ヲ除クナラハ其地方
官廳ニ謀リ更ニ其実況ヲ詳悉シテ全ク其背戻セ
サルノ実証アルニ於テハ^{紙幣頭ハ之ヲ}宿怨ス可シ尤モ右
ノ請願者ハ必スシモ其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣
頭ニ差出スヘシ

但シ此宿怨ヲナス時ハ紙幣頭ハ^總其趣ヲ出
張ノ監督役ニ達シテ暫ク其處置ニ取掛ルトテ
見合セシム可シ

第一百條

此條例第九十條ニ掲載スルカ如ク銀行

紙幣ノ引換
其處
費辨

平穩鎖店
ノ件

行紙幣ノ引換或ハ預リ金ノ返済ヲ拒ミ之カ為ノ
生スル處ノ費用即チ紙幣持主或ハ預ケ金アル者
ノ出願入質及ヒ諸検査推札ノ入費跡引受人ノ入
費等ハ都テ相当ノ處分ヲ以テ紙幣頭之ヲ取極メ
其銀行ヨリ之ヲ辨償セシム可シ

○第十三章 銀行平穩鎖店ノ手續及ヒ其紙幣
引換方等ノ事ヲ明カニス

第百二條 此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株
主ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セシトスル
ニハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以
テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申候シ其承認ヲ得テ
後々三ヶ月間東京大阪メ新聞紙又ハ其他ノ手續
ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行

公債証券下
シ及ヒ銀行紙幣
流通ノ残額
分スルノ件

ニ屬スル取引ノ清算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ
之ヲ世上ニ公告スヘシ

第百三條 右ノ公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其
引換ヘタル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納寮ニ預ケ置
キタル公債証券ノ内ヲ取戻スルヲ得ヘシ尤モ其
公告ノ日ヨリ半ケ年ヲ過キ其銀行ノ簿冊上ニ於
テ尚ホ世上ニ残在スル銀行紙幣アルニ於テハ其
員額又ケノ通貨ヲ出納頭ニ差出シ右預ケ置キタ
ル公債証券ノ全額ヲ取戻スルヲ得可シ然ル上ハ
其銀行紙幣ノ世上ニ残在スル分ハ大藏省ニ於テ
之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任
セサル可シ

第百四條 右鎖店ニタル銀行ヨリ其残在銀行紙幣

右銀行紙幣
ノ件

残在銀行紙幣引換ノ件

引換銀行紙幣引換ノ件

引換ノ夕ノ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取証昏ヲ製シ之ヲ其銀行へ下付スヘシ

但シ出納頭ハ右受取証昏ノ外ニ預リ証昏ヲ製シテ之ヲ紙幣頭へ回附シ置キ其残在銀行紙幣引換ノ為ノ右通貨ノ受取方ヲ要スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭へ渡スヘシ

第百五條 右預リ証昏ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ其残在銀行紙幣ノ引換方ニ從事スヘシ

第百六條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨シ其趣ヲ

世上ニ公告スヘシ右ニ屬スル諸計等其外ニモ紙幣頭國債頭出納頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置ク可シ

○第十四章 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス

第百七條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一般ノ人民ヲ相手取り訴訟スルカ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取り訴訟セラレカノ片ハ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其裁判所又ハ府縣ノ聽斷主任官負之ヲ裁判處分スヘシ

第百八條 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所又ハ府縣ノ聽斷主任官負之ヲ裁判處分スベシ但シ此條例中現ニ罰金

訴訟ノ取扱ハ一般ノ方法ニ從フベキ件

罰金處分ノ件

銀行納税ノ
件

ノ明文無キ箇條ヲ犯スルハ其時ニ當リ其
裁判所又ハ府縣ノ聽斷主官員ニ於テ相当ト思考
スル罰金(五圓ヨリ少テカラス五拾圓ヨリ多カラ
ザル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ
役員ニ命スヘシ

○第十五章 銀行納税ノ事ヲ明カニス

第九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追
テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ
相当ノ税金ヲ納ムヘシ

○第十六章 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カ
ニス

第十條 此国立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要
用ノ事アレハ何時ニテモ之ヲ増補シ又ハ之ヲ更

條例更正
及ヒ廢止
ノ件

正シ又或ハ之ヲ廢止スルヲアルヘシ但シ右増補
其他ノ節ハ直チニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ

國立銀行成規目次

銀行創立手續ノ事

株金募方ノ事

資本金月賦入金ノ事

資本金集合高申牒ノ事

資本金増減ノ事

公債証扨預方ノ事

銀行紙幣注文ノ事

銀行紙幣發行ノ事

損壞銀行紙幣引換ノ事

株式ノ事

株式賣買ノ事

株式讓與ノ事

第一條ヨリ

第八條ニ至ル

第九條ヨリ

第十二條

第十三條

第十四條ヨリ

第十五條ニ至ル

第十六條ヨリ

第十七條ニ至ル

第十八條ヨリ

第十九條ニ至ル

第二十條

第三十條

株式没入ノ事

第三十一條

總會ノ事

第三十二條

株主發言投票ノ事

第三十三條

諸役員ノ事

第三十四條

社中申合規則ノ事

第三十五條

利益金分配ノ事

第三十六條

諸計算ノ事

第三十七條

諸顧問屆等差出方ノ事

第三十八條

國立銀行報告ノ事

第三十九條

國立銀行成規

○銀行創立手續ノ事

第一條 此條例ヲ遵奉シテ國立銀行ヲ創立セントスルニハ先ツ五人以上ノ人員申合セ國立銀行創立致シ度趣ヲ願昏ニ認メ之ヲ大藏省ノ紙幣寮ニ差出スヘシ此願昏ニハ其銀行ノ營業場所資本金額等ヲ簡明ニ記載シ願請人一同之レニ記名調印スヘシ而シテ其之ヲ差出スニハ願請人直チニ之ヲ紙幣寮ニ持參スルカ又ハ(遠隔ノ地方ナレバ)郵便ヲ以テ之ヲ送達スルモ苦シカラス

但シ此資本金高ノ五分一ハ首トシテ其發起人等ヨリ其引請ケントスル株式金額ノ若干ヲ出金セシムルヲ以テ常則トス

第二條 右五人以上ノ人員ハ即チ發起人ニシテ株
金ノ募方(若シ之レ有ラバ)並ニ取締役ノ撰挙等相
濟ム迄ハ都テ銀行ノ事務ヲ擔当辦理スルモノト
スヘシ

第三條 紙幣頭ハ右願昏ヲ受取ラハ其發起人等ノ
身分其外トモ隱密ノ探索ヲ遂ケ且ツ其管轄地方
官廳ヘ其者共ノ身分營業ノ模様其外トモ公然諮
問ヲナシ銀行創立ヲ許可スルニ相当ナリト思慮
スルニ於テハ右發起人等ニ創立証昏並ニ銀行定
款ノ差出方ヲ命スヘシ

第四條 右紙幣頭ノ命ヲ受ルニ於テハ其發起人等
ハ株金ノ募方(若シ募ルベキアラハ)取掛レヘシ
而シテ株主一定ノ後ハ直チニ集會ヲ催シ首ノニ

(入札公撰ヲ以テ)取締役五人以上ヲ撰挙シ此内ヨ
リ前同断ノ方法ヲ以テ頭取タル一人ヲ定メ然
ル後チ創立証昏並ニ銀行定款ヲ付ナリトモ三箇
月以内(郵便遞送日數ヲ除ク)ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出
スヘシ若シ右期限内ニ此差出方ヲ怠ル片ハ前段
ノ許可ハ取消シタルヘシ

第五條 右創立証昏ノ雛形ハ左ノ如シ

一 國立銀行創立証昏
大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債証昏ヲ抵
當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ
引換ユル儀ニ付明治一年一月一日大日本政
府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵
奉シ國立銀行ヲ創立シ其業ヲ經營セント謀

通り記載約定シタル趣ヲ正実ニ保証スルニ
付キ其証據トシテ余ハ受^茲ニ記名調印シ併セ
テ当廳ノ官印ヲ鈐シ候也

年号一一年一月一日

地方長官^姓名印

地方官
廳之印

紙幣察印

右ハ一一國立銀行創立証^察印ノ正寫ニシテ其
本紙ハ正ニ之ヲ本察ニ受取り其事ヲ承認シ
タル証據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ
記名調印シ併セテ本察ノ官印ヲ鈐シ以テ其
銀行へ下付スルモノ也

年号一一年一月一日

紙幣^姓頭名印

紙幣
察之印

第六條

右銀行定款ノ雛形ハ左ノ如シ

一一國立銀行定款

大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債証^察印ヲ抵
当トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ
引換ユル儀ニ付明治一一年一月一日大日本政
府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵
奉シ当銀行ヲ創立スル為メ其株主等核議
上決定スル所ノ條々左ノ如シ

銀行名号ノ事

第一條 当銀行ノ名号ハ一一國立銀行ト稱

スヘシ

本支店設置ノ事

第二條 当銀行ノ本店ハ一府管下第一大区

一小区一柵一番地ニ於テ設置スヘシ

(但シ支店ヲ置ク片ハ其場所ヲモ茲ニ掲載スヘシ)

資本金ノ事

第三條 当銀行ノ資本金ハ一萬一千四百ニシ

高^百四百ヲ以テ一株トナシ總計一株ト定ムベシ

但シ國立銀行條例第四十條^四第十九條

ノ掲ケル所ノ旨^理趣ニ從ヒ株主等ハ其所

持ノ株數ノ割合ニ準シテ此資本金ヲ増

減スルヲ得ヘシ尤モ増加ノ節ハ時宜

ヨリ新ニ株主ヲ募ルコトアルベシ

第四條 何人タリトモ(外國人ヲ除ク)外荷

モ当銀行ノ規則ヲ奉シテ其株式ヲ引受ケ

タルモノハ都テ当銀行ノ株主タルベシ

株式没入ノ事

第五條 当銀行ノ株主タル者其株金ノ月賦

入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役ニ於テ其株ヲ

没入シ之ヲ競賣ニ出シ其代金ヲ以テ其入

費ヲ償却シ尚ホ過金アル片ハ之ヲ其元株

主ヘ返却スヘシ但シ此競賣ニ於テ右株式

ヲ買受ケタル株主モ他ノ株主同様ノ權利

ヲ有スヘシ

第六條 若シ右没入ノ株式ヲ買フ者アラザル
ル片ハ是迄入金シタル金高ハ其銀行ニ没
入シテ其株式ヲ消スヘシ尤モ此消株ノ為
ノ國立銀行條例第十七條ニ規定スル所ノ
資本金額ノ制限ヨリ減少スル片ハ頭取取
締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ制限ノ高ニ
満タシムベシ

株式券状之事

第七條 各株主タルモノハ其引請ケタル株
式一箇ニ付キ株式券状一通宛ヲ領受スル
ノ権利アルヘシ但シ其雛形ハ左ノ如シ
(茲ニ銀行株式券状ノ雛形ノ掲クベシ)

第八條 当銀行ノ株式ハ國立銀行條例成規

ノ旨趣ニ從ヒ頭取取締役ノ許可ヲ受ケ當
銀行ノ簿冊ニ引合セタル上ニテ之ヲ賣買
譲與スルコトヲ得ヘシ尤モ其株式券状ノ唇
替ヲナサハル時ハ当銀行ヨリ割渡スヘキ
利益金ハ新故ヲ論セス其株式券状ノ名前
人ニ渡スヘシ

頭取取締役撰挙ノ事

第九條 当銀行ノ取締役（三十一）株以上ヲ所持
スル株主ノ内ヨリ五人以上ヲ撰挙スヘシ
其撰挙ノ初集議ハ一月一日一街ニ於テ
スヘシ
但シ各取締役ハ右株式券状ヲ当銀行ニ
預ケ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シ

タル保護預リ証昏ヲ請取り置キ右頭取
取締役奉職中ハ決シテ之ヲ引出スヲ
得サルハシ

第十條 取締役ノ衆議ヲ以テ其中ヨリ一人
ヲ撰之ヲ頭取トナスヘシ此頭取及ヒ取
締役ノ在職年限ハ一ケ年ヲ以テ限リトス
ベシ尤モ頭取取締役タル者其任ニ堪ヘサ
ルカ或ハ取締役等ノ三分二以上ノ悞議ヲ
以テ退任セシムルハ此例ニアラス

(但シ副頭取ヲ撰任スル時モ亦本條ニ準
スヘシ尤モ此副頭取ハ頭取欠席スル時
其事務ヲ代理スルマテニシテ平日ハ取
締役ト同様タルヘキ旨ヲ掲載スヘシ)

第十一條 頭取取締役等ハ銀行ノ事務ヲ取
扱フヘキ支配人并ニ書記方出納方計算方
簿記方等ノ諸役員ヲ撰任シ又右ノ諸役員
等ノ給料ヲ取定メ銀行ノ得失ヲ考ヘ衆議
ノ上此役員等ヲ進退黜陟スルノ權アルヘ
シ

但シ頭取取締役等ハ又銀行ノ支配人以
下諸役員等ノ職掌ヲ分課シ其身元ノ引
受人ヲ約シ過怠金ヲ豫定スルノ權アル
ヘシ

第十二條 頭取取締役等ハ又向後ノ取締役
撰舉ノ法ヲ定メ此撰舉ノ衆議ニ異論起ル
時ハ之ヲ裁決スヘキ裁決役ヲ取定ムルノ

権アルヘシ

第十三條 頭取取締役等ハ都テ銀行條例成規ノ旨趣ヲ遵奉シ違任ノ職務ヲ執行スルノ権アルヘシ尤モ條例成規ノ要旨ヲ遵奉シテ厚ク当銀行ノ便益ヲ謀リ万般ノ事務ヲ注意處分ス可シ

但シ頭取取締役等ノ失職ハ國立銀行條例中ノ罰令ニ從テ各其責ニ任ス可シ

第十四條 頭取取締役等ハ其銀行ノ適宜ニ從テ銀行ノ職務ニ緊要ナル申合マ規則ヲ議定スルノ権アルヘシ

總會ノ事

第十五條 第一次ノ總會ハ開業免狀ヲ受ケ

シ日ヨリ後^三ヶ月以内ニ取締役ヨリ取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フベシ
第十六條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月一日^日第七月一日ニ頭取取締役ヨリ取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フベシ
但シ取締役ノ撰挙ハ毎年第一月ノ總會ニ於テ之ヲ決定施行スヘシ

第十七條 右總會ハ都テ定式總會ト稱シ其他ノ總會ハ都テ臨時總會ト稱スベシ

第十八條 頭取取締役ハ何時ニテモ適當アリト思考スルニ於テハ臨時總會ヲ召集スルヲ得ベシ又人員十名ニ下ラス其所持ノ株數当銀行總株ノ五分一ニ下ラザル株

主等ヨリ各面ヲ以テ臨時總會ノ請求アル
ニ於テハ何時ニテモ之ヲ召集セサルヲ得
得サルベシ

但シ右請求各ニハ此總會ヲ要スル事件
目的ヲ記載シ之ヲ本店へ差出スヘシ

第十九條 取締役ハ右請求各ヲ受取レバ直
チニ此總會ノ召集ニ取掛ルベシ

但シ取締役右請求各ヲ受取リシ日ヨリ
七日以内ニ總會召集ノ手續ニ取掛ラザ
ルハ其請求人又ハ他ノ株主等ト相謀
ワテ之ヲ召集スレトテ得ベシ

第二十條 凡ソ總會ニ於テ其事務ヲ評議處
分スルニ當テハ必ス株主ノ總員本人又ハ

代人共十分ノ五以上之レニ出席スルニ非
レバ利益金分配ノ通告一件ヲ除ク外何
事ヲモ着手スヘカラス

第二十一條 若シ集會ノ制限ヨリ一時間ヲ
過キテ其定式ノ人員臨席セサリシ片ハ之
ヲ此會日ヨリ七日目ニ延會シ此會ト同一
ナル場所制限ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第二十二條 定式臨時ノ別ナク總會ノ議長
ハ頭取又ハ副頭取之レニ任スベシ

第二十三條 若シ右ノ議長タルモノ總會ノ
制限ヨリ十五分時間ヲ過キ猶臨席セザリ
シキハ出席ノ株主中ヨリ一名ヲ撰挙シテ
之ヲ議長ト為スヘシ

第二十四條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ決定スル
ニハ可否又ハ同意不同意ナル發言投票ノ
數尤モ多キモノヲ以テスヘシ而シテ決議濟
ミノ次第ヲ銀行ノ簿冊ニ登録シ議長之レ
ニ記名調印シ以テ後日ノ參觀証據ニ備ヘ
置ベシ

第二十五條 凡ソ總會ニ當リ發言投票ノ數
相半スル片ハ議長ノ助說決票ヲ以テ之ヲ
裁決スヘシ

(此外總會ニ付キ緊要ナル箇條アリテハ之
ヲ掲載スヘシ)

株主ノ發言投票ノ事

第二十六條 各株主ハ其所持ノ株數十箇迄

ハ一株毎トニ一箇宛ノ發言投票ヲ為スヘ
シ又十一株以上百株迄ハ五株毎トニ一箇
宛ヲ増加シ百一株以上ハ十株毎トニ一箇
宛ヲ増加スヘシ

第二十七條 發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱
又ハ狂癲其他ノ事故アレバ)代人ニテモ苦
シカラス尤モ代人ハ左ノ委任狀ヲ以テ其
代人ヲラシムヘシ

(茲ニ委任狀ノ雛形ヲ掲クベシ)

第二十八條 當銀行ノ役員タル者ハ他人ノ
代人トナリテ發言投票スルノ權利ヲ有ス
ルヲ得ス又株券^式ヲ當銀行へ借財ノ為メ
質入シタル株主ハ自身又ハ他人ノ代人ニ

テモ一切発言投票ノ権利勿カルベシ
諸役員ノ事

第二十九條 当銀行ノ役員ト稱スルモハ
左ノ如シ

取締役 何人

内

頭取 一人

副頭取 何人(若シ之レアラバ)

支配人 何人

書記方 何人

出納方 何人

計算方 何人

簿記方 何人

(銀行ノ適宜ニヨリ此他役員ヲ設クル者ハ
右ニ準シテ茲ニ掲クベシ)

但シ当銀行創立ノ際取締役ノ撰任アル
迄ハ發起人ヲ以テ取締役ト見做スベシ

第三十條 頭取取締役タル者ハ当銀行營
業ノ全体ニ注意シ一切ノ事務ヲ處分シ總
テ其責ニ任スヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ
又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例
ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如キハ株
主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行ス
ル得ス

第三十一條 支配人ハ頭取取締役ノ差圖ヲ
受ケ各掛リノ事務ヲ列請ケ其擔當ノ制限

ニ依リ頭取取締役ニ對シテ之ヲ調理スルノ責ニ任スベシ

(右ノ外取締役ノ撰任其他凡ソ銀行ニ於テ緊要ナリトスル事件ヲ茲ニ掲載スベシ)

營業一般事務ノ事

第三十二條 當銀行ノ營業取扱時間ハ本店及ヒ支店共定式(又ハ臨時)休暇日ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時迄タルヘシ

第三十三條 休業ハ例月何日及ヒ定式ノ祝日祭日ニ限ルヘシ

第三十四條 頭取取締役ノ衆議ヲ以テ決定

シ当銀行ニ於テ用ユル所ノ本店并ニ支店ノ印章ハ即チ左ノ如シ



此外事務取扱ノ方法ニ関スル諸規則ヲ茲ニ掲載スヘシ

利益金分配ノ事

茲ニ銀行ノ純益金分配ノ方法其他ヲ掲載スヘシ

諸計算ノ事

茲ニ諸計算ニ於ケル諸簿冊並ニ檢閱其他ノ規則ヲ掲載スヘシ

株主へ報知ノ事

(茲ニ銀行ヨリ株主等へ報知スルノ方法ヲ
掲載スヘシ)

平穩鎖店ノ事

第三十五條 当銀行三分二以上株主等ノ格
段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テ
ハ平穩ニ鎖店スルヲ得ヘシ尤モ其鎖店
ノ手續ハ總テ國立銀行條例ヲ遵奉シテ之
ヲ施行スベシ

銀行定款更正ノ事

第三十六條 此定款ノ箇條ハ当銀行三分二
以上株主等ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承
認ヲ得ルニ於テハ何時ニテモ之ヲ更正加

除スルヲ得ベシ

右ノ條々株主等ノ衆議ヲ以テ相定候其証據
トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致シ候也

年号一一年一月一日

各株主連名印

但シ此定款ハ株主等ノ恠議ニヨリテ之ヲ草定
シ追テ頭取支配人等定リシ上本紙正寫ノ二通
ヘ左ノ奥昏ヲ加ヘ紙幣頭へ指出スベシ

右ノ一國立銀行定款ハ之ヲ三通ニ認メ本紙
一通正寫一通ヲ上呈シ他ノ一通ハ同文言ニ
テ慥ニ之ヲ銀行ニ藏メ置候仍テ其証據トシ
テ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候也

年号一一年一月一日

一、國立銀行支配人

頭取

姓名印

姓名印

紙幣頭何某殿

銀行へ藏置リヘキ正寫ノ奥登左ノ如シ
右ハ一國立銀行定款本紙ノ正寫ニシテ其
本紙並ニ正寫一通ツ、ハ規則ノ通り之ヲ紙
幣寮へ差上候仍テ其証據トシテ私共自ラ姓
名ヲ記シ調印致シ候也

年号一一年一月一日

一國立銀行頭取

姓名印

支配人

姓名印

紙幣寮副印

右ハ一國立銀行定款ノ正寫ニシテ其本紙ハ正
ニ之ヲ当寮ニ受取リ其事ヲ承認シタル証據
トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印
シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈴シ以テ其銀行へ下
付スルモノ也

年号一一年一月一日

紙幣頭名印

紙幣
寮印

但シ創立証昏ハ國立銀行ヲ創立スルニ於テ政
府ト其銀行トノ約定昏ニ以シキ緊要ノ昏面ニ
シテ自ラ銀行定款ト異ナル者ナリ銀行定款ハ
全ク銀行株主等ノ取定ノタル社中ノ規則ニシ
テ政府ニ關係アル者ニ非ス故ニ銀行ノ役員ヨ
リ株主等ニ至ルマテ苟クモ此別ヲ誤ル可カラ
ス

第七條 紙幣頭ハ右創立証昏并ニ銀行定款ヲ相当
ト思考スルニ於テハ其開業免狀ヲ其銀行へ下ケ

渡スベシ然ル後其銀行ハ始メテ名号ヲ公稱シ其業ヲ始ムルヲ得ベシ

但シ紙幣頭ヨリ開業免状ヲ下ケ渡サ、ル内ハ創立ニ付テ差起ル事故及ヒ開業前緊要ナル件々ノ外決シテ銀行營業ノ事務ヲ取扱フベカラス

第八條 右開業免状ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番

開業免状

一 縣管下第一區一小区一柵ニ於テ創立スル一国立銀行ヨリ差出シタル創立証書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ヨリ発行スル所ノ公債証書ヲ抵当トシテ銀行紙幣ヲ発行シ之

紙幣察印

ヲ通用シ之ヲ引換ル儀ニ付明治一一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シタル国立銀行條例ヲ手續ヲ履行シタルヲ分明ナルニ付キ今此開業免状ヲ交付シ自今右條例ヲ遵奉シ国立銀行ノ業ヲ営ムヲ許可スルモノ也
右ノ証據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐スルモノ也

紙幣
寮印

但シ右開業免状ヲ受ケタル上ハ直チニ其事業ヲ經營スルヲ得ヘトニ付火盜ノ難ヲ防カシカ

渡スベシ然ル後其銀行ハ始メテ名号ヲ公稱シ其業ヲ始ムルヲ得ベシ

但シ紙幣頭ヨリ開業免状ヲ下ケ渡サ、ル内ハ創立ニ付テ差起ル事故及ヒ開業前緊要ナル件々ノ外決シテ銀行營業ノ事務ヲ取扱フベカラス

第八條 右開業免状ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番

開業免状

一 縣管下第一區一小区一町ニ於テ創立スル一国立銀行ヨリ差出シタル創立証書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ヨリ発行スル所ノ公債証書ヲ抵当トシテ銀行紙幣ヲ発行シ之

紙幣頭印

ヲ通用シ之ヲ引換ル儀ニ付明治一一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シタル国立銀行條例ヲ手續ヲ履行シタルヲ分明ナルニ付キ今此開業免状ヲ交付シ自今右條例ヲ遵奉シ国立銀行ノ業ヲ営ムヲ許可スルモノ也
右ノ証據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐スルモノ也

年号一一年一月一日

紙幣頭名印

紙幣
頭印

但シ右開業免状ヲ受ケタル上ハ直ニ其事業ヲ經營スルヲ得ヘキニ付火盜ノ難ヲ防カンカ

紙幣頭印

紙幣
頭印

為ノ堅固ナル金庫ノ建築スヘシ

○株金ヲ募方ノ事

第九條 株金ヲ募ルノ法ハ新聞紙又ハ其他ノ手續
ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スベシ即チ^何府管下^何第^何
大區^何小區^何柵^何番地ニ於テ何々ノ方法ヲ以テ
國立銀行ヲ創立スルニ付キ其組合ニ加入セント
欲スル人々ハ何月何日ニ何街何屋ニ來ルヘシ發
起人何ノ誰々等ト記載スヘシ

第十條 当日ニ至ツテ右何街何屋ニ於テ發起人等
簿冊ヲ開キ其銀行ノ組合ニ加入セント申込ミタ
ル人々ノ姓名并ニ入金スヘキ金額ヲ其簿冊ニ登
込ニ何月何日迄ニ入金スヘキ旨ヲ取定ムヘシ
第十一條 入金ノ当日ニ至テ入金者ハ各々其簿冊

ニ登込シタル金額ヲ其發起人方へ持参スヘシ而
ノ其發起人等ハ其金子引換ニ左ニ掲載セル入金
受取証^何ヲ其入金者へ渡スヘシ

但シ此^何登込ニテ集金ノ員額發起人等ノ見込
員額ヨリ多キ片ハ割引ヲ以テ入金者ノ出金員
額ヲ減少スルカ又ハ銀行ノ資本金額最初ノ見
込ヨリ増加スルトモ其發起人等ノ存意ニ任ス
ヘシ

半高入金受取証^何

一 金一圓也

右ハ今般創立ノ一國立銀行株式ノ内一株ノ
半高一株ニ付キ一圓ノ割合ヲ以テ最初ノ入金
下シテ^何面ノ通^何正ニ落手致候右株式券狀ハ

迄テ總月賦入金相済候上ニテ交付可致候仍
テ為後証如件

年号一一年一月一日

一国立銀行發起人

連名印

何某殿

○資本金月賦入金ノ事

第十二條 国立銀行ノ資本金ハ開業前必ス其半高

ヲ株主等ヨリ銀行へ入金シ残り半高ハ之ヲ五ヶ

月ニ割合之ヲ入金スヘシ

例へハ資本金拾万圓ノ銀行ナレハ

一月十五日開業迄ニ入金高 五万圓

二月十五日迄ニ入金高 壹万圓

三月十五日迄ニ入金高 壹万圓

四月十五日迄ニ入金高 壹万圓

五月十五日迄ニ入金高 壹万圓

六月十五日迄ニ入金高 壹万圓

合計拾万圓

右ノ如ク開業ノ日ヨリ算シテ毎月入金スヘシ尤
六ヶ月前ニ悉ク入金シ又ハ開業前ニ資本金總額
ヲ入金スルハ其銀行ノ適宜タルヘシ但シ銀行ニ
於テ右月賦入金ヲ請取ル片ハ左ノ請取証唇ヲ株
主へ渡スヘシ

第一回月賦入金

一金一圓也

右ハ当一国立銀行株式ノ内一番ヨリ一番
マテ一株ノ第一回月賦入金一圓ニ付一圓ノ

割合ヲ以テ唇面ノ通正ニ落手致候右株式券
状ハ追テ總月賦入金相済候上ニテ交附可致
候仍テ為後証如件

年号一一年一月十日

一國立銀行頭取

銀行
之印

同

支配人
姓名印

何某殿

○資本金集合高申牒ノ事

第十三條

株主ヨリ

月賦金ヲ其割合ニ從ヒ入金ス

ル片ハ其月賦總入金済迄ハ毎月其銀行ヨリ資本金集合高届唇ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其文例ハ即チ左ノ如シ

資本金集合高届唇

一府管下第一大区一小区一町ニ創立シタル
一國立銀行ノ資本金トシテ一万一千圓ノ
第一回月賦ヲ株主等ヨリ入金イタシ是迄ノ
入金ニ加算シ總高一万一千圓ト相成候也

年号一一年一月一日

一國立銀行支配人

銀行
之印

同

頭取
姓名印

紙幣頭何某殿

○資本金増減ノ事

第十四條

國立銀行ハ條例第二十八條ニ準據シ其

資本金額ヲ増加スル片ハ速カニ資本金増込証唇
ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金増加証唇

一府管下第一大区一小区一町一國立銀行

資本金ヲ減少スル片ハ主ノ諸般ノ手續ヲ経テ後
 紙幣頭ハ其資本金減少証昏ヲ差出スヘシ其
 例ハ即チ左ノ如シ

但シ減少ノ手續ハ其銀行紙幣^{紙幣}ノ紙幣寮^{返上}
 シテ焼捨ノ手續ヲナシ其同額ノ公債証昏ヲ紙
 幣頭ノ手ヲ経テ出納頭ヨリ取戻スヘシ而シテ
 其準備金モ亦之ニ準シテ減少スヘシ

元^{附本}金減少証昏

縣管下第一大区一小區^町一国立銀行

減支株數并金額	残株數并金額	住	所	姓	名
一箇	一箇	<small>縣管下第一大区一小區一精華士撰平民 村一番地</small>			何某
合一箇	合一箇				

右ハ株主三分二以上ノ存意ヲ以テ資本金減
 少高并ニ残現額共昏面ノ通相違無之候也

年号一 年一 月一 日 一 国立銀行支配人

銀行 之印 同 頭取 姓名印
 姓名印

紙幣頭何某殿

右之通相違無之候也 地方長官^姓 姓名印
 廳之印

右ハ一 国立銀行資本金減少証昏差出
 年号一 年一 月一 日 余ハ大藏卿ノ命ヲ奉
 其事ヲ承認シタル証據^蓋ニ記名調印シ併

印 察幣紙

セラ本寮ノ官印ヲ銜スルモノ也
年号ノ年ノ月ノ日
紙幣頭名印

紙幣
寮印

右増減証唇ハ各々ニ通苑ヲ紙幣寮ニ出シ其一
通ハ前ノ文例ノ如ク紙幣頭奥唇銜印シテ其
銀行ヘ下付スベシ

○公債証唇預方ノ事

第十六條 国立銀行ニテ其業ヲ始ムヘキ前ニ四朱
以上利付ノ公債証唇ヲ買入レ之ヲ出納頭ニ預ク
ヘシ右ハ其銀行ヨリ発行スヘキ紙幣ノ抵当ナレ
ハ其銀行ノ資本金額十分八ノ割合ニテ即チ銀

行ニ受取ルヘキ銀行紙幣ト同額タレシ(條例第

十八條第十九條第二十三條ヲ参考スベシ)

第十七條 出納頭ハ右公債証唇ヲ領受シ直ニ及請
取唇ヲ其銀行ヘ下付シ追テ紙幣頭連名ノ本受取
証唇ヲ製シ其ノ及受取唇ト引換エヘシ

○銀行紙幣注文ノ事

第十八條 国立銀行ハ右公債証唇ノ受取唇ヲ領受
セハ其銀行ヨリ発行スヘキ銀行紙幣ノ受取方ヲ
頭取支配人ヨリ注文唇ヲ以テ紙幣頭ヘ申立ヘシ
其文例ハ左ノ如シ

但シ條例第四十六條ニ準據シテ此注文及
出ス可シ

銀行紙幣注文唇

十 附 管 下 第 一 大 區 一 小 區 一 柵 = 創 立 シ タ ル
 一 十 國 立 銀 行 = 於 テ 國 立 銀 行 條 例 = 後 ヒ
 万 一 千 圓 / 銀 行 紙 幣 ナ 發 行 致 シ 度 = 付 七
 掲 載 ス ル 種 類 負 額 / 紙 幣 製 造 / 上 御 渡 初 下
 度 候 也

銀行紙幣種類	枚	数	金	額
1	1	1	1	1
1	1	1	1	1
1	1	1	1	1
1	1	1	1	1
1	1	1	1	1
合	1	合	1	1

右 銀 行 紙 幣 / 抵 当 ト シ テ 出 納 頭 = 預 ケ タ ル

公 債 証 券 / 現 額 / 左 ノ 如 シ

公債種類	枚数	利	息	実價割合	金	額
1 公債証券	1 枚	1	朱	百圓 = 付	1 圓	1 圓
1 公債証券	1 枚	1	朱	百圓 = 付	1 圓	1 圓
合計	1 圓	1 圓	1 圓	1 圓	1 圓	1 圓

右 之 趣 謹 テ 奉 願 候 也

年 号 一 年 一 月 一 日

一 國 立 銀 行 支 配 人

銀 行 之 印

紙 幣 頭 何 某 殿

同 頭 取 姓 名 印

第 十 九 條 右 銀 行 紙 幣 / 注 文 付 領 受 ス ル = 於
 紙 幣 頭 八 條 例 第 四 十 七 條 = 準 據 シ 銀 行 紙 幣 ナ

製造シテ之ヲ其銀行へ下付スベシ而シテ其銀行ハ之ヲ受取リテ後受取証書ヲ差出ス可シ其文列ハ左ノ如シ

銀行紙幣請取証書

紙幣種類	枚	數	金額
一	四	枚	一
一	四	枚	一
合計	一	枚	合計一四

右ハ当一国立銀行発行紙幣トシテ正ニ請取候也

年号一 年一月一日

国立銀行支配人

銀行之印	同	頭取姓名印	姓名印
------	---	-------	-----

紙幣頭何某殿

○銀行紙幣發行ノ事

第二十條 国立銀行ニテ右銀行紙幣ヲ領受スルニ於テ頭取支配人ノ兩人一々其紙幣ノ表面ニ其役名及ヒ姓名ヲ記入シ其役印ヲ押捺シテ後チ之ヲ世上ニ發行スヘシ若シ其記入押捺ノ際損傷等ノモノアルニ於テハ更ニ其趣ヲ紙幣頭ニ申立テ其損傷廢紙幣ヲ納メテ引替ヲ乞フ可シ

但シ頭取支配人ハ其印影ヲ紙幣頭ニ差出シ其紙幣押印ノ用肉ヲ紙幣察ヨリ受取ヘシ

○損壞銀行紙幣引換方ノ事
第二十一條 国立銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣數裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルハ條第二十

十一條ニ準據シ頭取支配スヨリ各面ヲ添之ヲ紙幣頭ニ差出シテ其引換ヲ請フヘシ其文例ノ如シ

但シ記入押印ノ際損傷シタル銀行紙幣モ亦此例ヲ以テ申立ベシ

紙幣種類		枚	數	金額
1	1	1	1	1
1	1	1	1	1
合計	1	枚	合計	1

記

右ハ当銀行發行紙幣ノ内敗裂或ハ汚染等ヲ通用難相成分各面之通差上候處相違無之候

右敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ハ國立銀行條例ノ旨ニ從ヒ燒捨ノ立合可致候尤モ燒捨消ノ上同種同額ノ新銀行紙幣ヲ御渡シ可被下候此段奉願候也

年号 1年 1月 1日 1 國立銀行支配人

銀行之印 同 頭取 姓名 印

紙幣頭何某殿

紙幣頭ハ右敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ請取ラハ其代リ新銀行紙幣ヲ以テ之ヲ其銀行ニ下スヘ

第二十二條 紙幣寮ニ於テ右銀行紙幣ヲ燒捨ル節
ハ其趣ヲ銀行ハ通達アルヘキニ付銀行ハ合人
ヲ紙幣寮ニ差出シ燒捨所ニ於テ立合更驗上燒
捨証屑ニ記名調印スヘシ尤モ此燒捨証屑ハ二通
ニ認メ一通ハ紙幣寮ニ藏メ一通ハ之ヲ其銀行ニ
下付スヘシ右ノ立合ニハ大藏省ニ關係ナキ人ヲ
撰テ銀行ヨリ差出スヘシ
但シ遠隔ノ地方ニ創立シタル銀行ハ東京ニ於
テ豫テ燒捨ノ立合人ヲ頼置キ其姓名住所ハ之
ヲ紙幣寮ニ届ケ置クベシ
第二十三條 國立銀行ヨリ引換ノ為メニ紙幣寮ニ
差出スヘキ敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ハ五百圓以

上ノ高タルベシ其銀行紙幣ハ消印ヲ押シ種類ヲ
分テ其封套ニ其金額ヲ記載シ前第二十五條ノ旨
面ヲ添ヘ之ヲ紙幣寮ニ差出スヘシ尤モ此紙幣引替
ニ付往復運送ノ諸費用ハ銀行之ヲ辨スベシ
但シ數片ニ細裂シタル銀行紙幣アラハ銀行ノ
役員之ヲ連接シテ差出スヘシ
第二十四條 敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ其銀行ニ
持參シ引換ヲ乞フ者アラハ銀行ノ役員ハ其金額
ノ數位ニ注目検査シテ之ヲ引替フベシ尤モ敗裂レ
テ其紙片ヲ全備ニサレモノト虽モ大藏卿ノ印章
アルニ於テハ之ヲ引替フヘシ
○株式ノ事
第二十五條 國立銀行ノ株式タルモノハ其持ス

ル所ノ株金總入金済ニトテリタル時ハ社ニテ
 シタル株式券状ヲ一株ニ付一通宛領収スルノ権
 利アルヘシ其株式券状ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番

大日本^{印割}第一^地国立銀行株式券状

第一^府管下第一^{大區}小區^一番地何某
 殿儀大日本帝國政府ニ於テ制定施行シタル
 国立銀行條例ヲ遵奉シ且ツ当銀行ノ定款ヲ
 確守シ年号一年一月一日ヨリ我国立銀行株
 式ノ内^{印割}即チ一株ノ持主タルヲ相違無
 証據トシテ此株式券状ニ当銀行ノ印章ヲ押
 捺シ之ヲ附映スルモノ也
 此株式券状ヲ賣却讓與セント欲セハ当銀行

へ持参スヘシ銀行ニ於テ至当ノ検査ヲ遂ケ
 面此券状裏面ノ枠内へ頭取支配人記名調印ノ
 上之ヲ差戻スヘシ

年号一年一月一日

国立銀行頭取

銀行
之印

同
支配人
姓名印
姓名印

裏	年号月日	賣渡人記名調印	買受人記名調印	頭取記名調印	支配人記名調印
面					

第二十六條 若シ右株式券状磨滅敗裂等ノハアル
片ハ其趣ヲ背面ニ認メ之レカ替替チ乞フベシ若
又燒亡紛失スレバ其事實ヲ明瞭ニ認メ二
人以上ノ証人ヲ立テ各之レニ記名調印シ更ニ新
株式券状ノ受取方チ乞フベシ
但シ株式券状ヲ替替ル等ノ時ハ銀行ヨリ差圖
スル所ノ手数料ヲ拂フベシ

○株式賣買ノ事

第二十七條 株式賣買スルニハ之レカ証各ヲ製シ
賣渡人買受人ノ双方相当ナル証人ノ眼前ニ於テ
之レニ連印シ株式券状ト共ニ之レヲ銀行ニ差出
スヘシ而シテ頭取支配人ハ兼テ備置キタル株式賣
買ノ簿冊ニ其顛末ヲ登記シ其株式券状ノ裏面ニ

記名調印ヲ加ヘ併セテ右証各株式券状ノ間ニ割
印ヲ押捺シ再ヒ之ヲ其人々ニ渡スヘシ但シ右ノ
手數相済ム迄ハ賣渡人ヲ以テ右株式ノ持主ト定
ムヘシ

第二十八條 右株式賣買証各ノ文例ハ左ノ如シ

株式賣買証各

一 國立銀行株式ノ内第一番(或ハ第一番ヨ
リ一番迄)一株ノ株式何某(茲ニ賣渡人ノ姓名
ヲ掲ク)所持ノ分代金一〇〇圓ニテ今般何某(茲
ニ買受人ノ姓名ヲ掲ク)ニ賣渡シ背面ノ金額
受取渡シ相済候處実正也然ル上ハ向後買受
人ハ勿論其相続人後見人ニ於テモ之ヲ所持
シ何某賣渡人ノ姓名所持中ト同様ノ規約ヲ

遵守スヘシ仍テ証書如左

年号一一年一月一日

一府管下第一大区一小區一町一番地

賣渡人 姓名印

一府管第一大区一小區一町一番地

買受人 姓名印

一府管第一大区一小區一町一番地

証人 姓名印

第二十九條 右株式賣買ノ簿冊ハ每半季定式總會

以前日數十五日ノ間ハ之ヲ閉鎖シ新聞紙又ハ其

ノ手續キテ以テ其趣ヲ世上ニ公告シ一切其事ノ

取扱ニ從事マサルヲ得ベシ

○株式讓與ノ事

第三十條 銀行株主ノ内死去スルカ又ハ破産ス

ル者アリテ其相続人若クハ後見人ノ右株式ヲ讓

受クヘキモノハ銀行ノ要求セル然ルヘキ証據ヲ

差出シタル上ニテ其銀行ノ株主トシテ株主牒ノ

記載ニ入ルヲ得ヘシ

○株式没収ノ事

第三十一條 銀行ノ株主等若シ株金月賦入金ヲ怠

ル時ハ頭取取締役等ハ條例第四十二條^三四十三條^三

ニ準據シテ之カ處分ヲナスベシ

○總會ノ事

第三十二條 第一次ノ總會ハ銀行其開業免狀^状受

ケモヨリ以後三ヶ月以内ニ於テ其頭取取締役ノ

取極ノタル時且場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第三十三條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月第七

月何レモ然ルヘキ日ニ於テ頭取取締役ノ取極ム
ル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フベシ

第三十四條 凡ソ總會ハ定式臨時ノ二様ニ分テ前
條ニ掲載シタル總會ヲ定式總會ト稱シ此總會ニ
於テハ總勘定ニ於ケル正算指示ノ事并ニ利益金
分配ノ事及ヒ頭取支配人ヨリ差出シス所ノ平常
廢務ノ顛末ヲ記載シタル各書類ヲ稽查審察スル等
ノ事ヲ施行スヘシ其他ノ總會ヲ臨時總會ト稱シ
臨時ニ起ル所ノ事件ヲ評議處方スヘシ

第三十五條 凡ソ總會ヲ執行ハントスルニ當リテ
ハ其取極ノタル時日場所ヲ報告各ニ記載シ若シ
格段決議ニ付スヘキ事件アレハ其大旨ヲモ加載
シ少ナクト日數ニ日以前ニ於テ之ヲ總株主ニ通

知スヘシ而シテ右ノ如ク手數ヲ為セシ上ハ仮令ヒ
株主ノ内右報告各ヲ受承セサルモノアルトモ此
總會ノ手續ニ於テハ既ニ尽セシモノト為スヘシ
但シ銀行ヨリ各株主ニ報告スルノ各書類ハ之ヲ
直達スルカ又ハ郵便其他ノ手續ヲ以テスル
ノ都テ銀行ノ便宜任スヘシ

第三十六條 銀行ノ頭取取締役ニ於テ適當ナリト
思考スルカ又ハ株主ノ人員十名ニ下ラスシテ其
所持ノ株數總株ノ五分一以上ニ及フモヨリ之
ヲ請求スルカニ於テハ何時ニテモ臨時總會ヲ執
行フコトヲ得ヘシ

第三十七條 右株主等ノ請求ハ之ヲ各面ニ認
總會ヲ請求スル所以ノ目的事件ヲ詳載シ郵便又

ハ其他ノ手續キテ以テ之ヲ頭取取締役へ送達ス
ヘシ

第三十八條 頭取取締役ハ右請求者ヲ領受セハ直
チニ其總會召集ノ事ニ取掛ルヘシ若シ取締役ガ
請求承認セシ日ヨリ日數七日ノ内ニ召集ノ手續
ヲナササルキハ右請求人又ハ其他ノ株主等ト相
謀テ之ヲ召集スルヲ得ベシ

第三十九條 凡ソ總會ニ於テ事務ヲ評議處方スル
ニ當ツテハ必ス株主ノ總負本人又ハ代人共十分
ノ五以上之レニ出席スルニ非ザレハ(利益金分配
ノ通告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ評議處方スヘカ
ラス

第四十條 凡ソ總會ノ議長ハ頭取又ハ副頭取之

ニ任スヘシ

第四十一條 右議長若シ會集スヘキ期限ヨリ十五
分時間ヲ過キ猶臨席セサリレキハ出席株主等ノ
内ヨリ一人ヲ公撰シ以テ議長ト為スヲ得ヘシ

第四十二條 凡ソ總會ニ於テ事務ヲ議定スルニハ(可
否又ハ同意不同意ノ発言若シクハ投票ニテモ其
說ノ多數ニ因リ以テ之ヲ決定シ其次第ヲ簿冊ニ
登録シ併セテ其決議済ミノ旨ヲ加載シ其節ノ議
長之レニ捺印シ以テ後日ノ參觀証據ニ備ヘ置ク
ヘシ

第四十三條 凡ソ總會ニ於テ事務ヲ議定スルニ若シ
発言投票ノ數相半ハスル片ハ議長ノ助說若
ハ決票ヲ以テ之ヲ裁決スベシ

大藏省

○株主發言投票ノ事

第四十四條 銀行ノ株主等ハ各其所持セル株
箇五ハ一株毎ト一箇宛ノ發言投票ヲ為スル又
十一株以上百株迄ハ五株毎ト一箇宛ヲ増加シ
百一株以上ハ十株毎ト一箇宛ヲ増加スル
定ムヘシ

第四十五條 凡ソ銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人
トナリテ發言投票スルノ權利ヲ有スルヲ得ス
又株式券狀ヲ借財ノ為メ其銀行ハ質入シタルモ
ノハ總會ニ於テ自身又ハ他人ノ名代ニテモ一切
發言投票ノ權利勿カルベシ

第四十六條 發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又ハ狂
癲其他ノ事故アルニ於テハ)代人何シモ勝手タル

ヘシ尤モ代人ハ其銀行ノ株主中ノ者ニ限り之レ
ニ委任狀ヲ與ヘ以テ之ヲ差出スベシ若シ其代人
ヲ差出サスシテ決議ノ後如何ナル異議アルトモ
一切之ヲ申立ツルヲ得サルヘシ

第四十七條 右代人委任狀ノ雛形ハ左ノ如シ

委任狀ノ事

年号一一年一月一日一國立銀行ノ定式又ハ
臨時總會及ヒ其延會ニ於テ何某ヲ拙者代人
トシテ發言投票為致候仍テ委任狀如件
年号一一年一月一日 一國立銀行株主

姓名印

一國立銀行御中

○諸役員ノ事

第四十八條 國立銀行ノ役一ト稱スルモノハ左ノ如シ

取締役 何人

内

頭取 一人

副頭取 何人(若シ之レアラハ)

支配人 何人

各記方 何人

出納方 何人

計算法 何人

簿記方 何人

但シ右ノ如ク制定スト雖モ銀行ノ便宜ニ依リ之レヲ廢置兼茲シ若シクハ其他ノ役員ヲ設置

スルヲ得ベシ尤モ取締役ノ人員ハ(頭取副頭取ヲ加ヘ)都合五名ヨリ減スヘカラス故ニ若シ右ノ定員ヨリ欠クルハ株主一同ノ協議ヲ以テ速カニ其欠ヲ補フベシ

第四十九條 國立銀行ノ頭取取締役タル者ハ其銀行營業ノ全体ニ注意シ實際ノ事務ヲ察分シ總テ其責ニ任スヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ廢スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得ス

第五十條 取締役ハ同僚中ヨリ(入札公撰ヲ以テ)其人ヲ撰舉シテ頭取又ハ副頭取ト為スヘシ此ハ銀行ノ事務ヲ總判シ及ヒ會議ノ席ニ於テ議長

ノ職ニ任スヘシ但シ副頭取ノ頭取又席スル時キ
其時務ノ代理スル迄ニシテ平日ハ取締役ト
ノ職任タル可シ

第五十一條 左ニ掲ケシ人々ハ取締役タルヲ得
カラス

第一 銀行ニ於テ三十株又ハ六十株以上ヲ所
持セサル株主

但シ資本金拾万圓以上ニシテ一株百
圓ノ銀行ナレハ三十株一株五十圓ノ
銀行ナレハ六十株又資本金拾万圓未
滿五万圓以上ニシテ一株五十圓ノ銀
行ナレハ三十株一株二十五圓ノ銀行
ナレハ六十株ノ割合タルベシ

第二 一旦破産ニ遇ヒシ株主

第五十二條 取締役ノ人員三分ノ二ハ本店設立ノ
地方ニ於テ少ナクトモ一箇年間住居セシモノタ
ルヘシ

第五十三條 各取締役ハ其所持ノ株式券状三十箇
又ハ六十箇前第五十一條中第一項ニ掲ケル所ノ
割合ヲ其銀行ニ預ケ其代リトシテ禁授受ノ三序
ヲ附シタル保護預リ証各ヲ請取リ置キ右取締役
ノ奉職中ハ決シテ之ヲ引出スヲ得サルベシ

第五十四條 頭取取締役タリトモ株主一同ノ協議
ヲ取極メタル給料旅費及ヒ賞答金等并ニ株
主ノ場ニ受取ルヘキ分配利益金ノ外自餘
得テ受クルヲ得サルベシ

第五十五條 取締役ノ撰挙ハ定式總會ニ於テ株主
 一同ノ没票ヲ以テ之ヲ撰挙スヘシ尤モ不特
 員アル中ノ臨時總會ニ於テ之ヲ撰挙スヘシ
 第五十六條 右ノ總會ニ於テ撰挙セラレ、所ノ取
 締役ハ直チニ誓詞ニ通テ認メ本紙ハ紙幣頭ニ
 出シ寫一通ハ其銀行ニ藏メ置クヘシ其文例ハ左
 ノ如シ

頭取 取締役ノ誓詞
 一 府管下第一大区一小区一町ニ於テ創立シ
 タル一国立銀行ノ取締役何某謹テ左ノ條
 タニ誓フ
 私儀ハ一府ノ華士族ニシテ一府管下第一大
 区一小区一町ニ居住イタスニ相違無之事

当銀行ノ事務ヲ處分スルニ付私共關係ノ職
 掌ハ謹直ニ取扱フヘキ事
 私任職中ハ国立銀行條例・成規規定ハ一個
 條タルモ決シテ犯ス間敷又他人ナシテ犯
 サセ間敷事
 国立銀行條例成規ノ旨趣規定ニ從ヒ私儀当銀行
 ノ株主牒ニ各込タル通り資本金中ノ一ノ株
 ハ自力ヲ以テ所持スルニ相違之レナキ事
 右ノ株式券状又ハ一ノ株内ニ六十株ノ株式券
 状国立銀行ノ條例成規ノ旨趣規定ニ從ヒ当銀行
 へ預ケ置キ在職中ハ決シテ引出ス間敷候事

一 府管下第一大区一小区一町一国立銀行
 頭取 取締役
 姓名 印

年号一 年一月一日 唇面ノ者余カ眼前ニ於テ
調印シテ致シ候也

地方官
廳之印

地方長官姓名印

但シ此誓詞ハ取締役等各通タルベシ

第五十七條 銀行ノ頭取支配人ノ撰挙ナレタル時

新任ノ印影ヲ添ヘ上任ノ報告ヲ紙幣頭ニ差出
スヘシ其文例ハ即チ左ノ如シ

但シ最初撰挙ノ時差出ス所ノ上任報告ニハ文
例定元役ヲ取除クハ勿論タルヘシ

上任報告

当一月一日何某儀ハ当。国立銀行ノ頭取ニ選

ハレ何某儀ハ支配人ニ命セラレ其印鑑ハ別
紙ノ通ニ候也

年号一 年一月一日 国立銀行

元支配人 姓名印

元頭取 姓名印

新支配人 姓名印

新頭取 姓名印

紙幣頭何某殿

用紙羨濃 七寸幅ニ寸

年号一 年一月一日 何某代リ

何役撰挙

銀行
印

印鑑

印

宿所

府華士族
平民

姓名

一年一月

第五十八條 頭取取締役、其職務ヲ奉ル為メヤナ
クモ毎月一度以上同僚中ノ集會ヲ為シ以テ其
務ヲ評議妥分スルヲ得ベシ而シテ此集會ノ體裁
方法ハ總會ノ手續ニ準據シ銀行ニ於テ然ルヘキ
規程ヲ立テ以テ之シニ從事スヘシ

第五十九條 頭取取締役在職ノ年限ハ一期必ス滿
一箇年タルヘシ而シテ退役放免等ノ外ハ奉職ノ年
限中必ス勤仕スルモノト為スヘシ

第六十條 支配人以下ノ撰舉並ニ給料等ハ頭取取
締役ノ意見ニ因リ之ヲ取極ムヘシ尤モ支配人ハ
銀行ノ事業ヲ處分スル重任ナレハ株主ニ非ル者
ニテモ須ラク熟練ノ人ヲ撰フヘシ且ツ其他ノ役
員モ亦他人ヲ雇入ル、モ其銀行ノ便宜ニ任スヘシ

○社中申合規則ノ事

第六十一條 頭取取締役ハ其同僚ノ衆議ヲ尽シ利
益金分配ノ手續諸役員ノ推限分課給料旅費ノ定
則及ヒ其廢退進退其他一切緊要ナル事件ヲ適宜
掲載シタル社中申合規則ヲ議定スヘシ尤モ右申
合規則ハ條例成規ノ旨趣ニ背戾セサルハ勿論ヲ
リトモ其社中ノ申合ニ止ルヲ以テ更ニ紙幣頭
ハ差出スニ及ハサルヘシ

○利益金分配ノ事

第六十二條 頭取取締役ハ株主ノ總會ヲ經テ銀行
ノ利益金ノ株主銘々所持ノ株高
スヘキ旨ヲ總株主ニ報知スヘシ

○諸計算ノ事

第六十三條 銀行ノ出納其他一切ノ計算ニ関スル諸簿冊ハ紙幣頭差圖スル所ノ格式ニ從ヒ明細帳簿ニ記入スヘシ

第六十四條 頭取取締役ハ每半季考課狀及ヒ出納ノ明細帳ヲ製シ總會ニ於テ之ヲ株主一同ヘ明示スヘシ

○諸願伺届等差出方ノ事

第六十五條 銀行ノ諸願伺届報告其他凡ソ諸官廳ヘ差出ヌヘキ一切ノ文書ハ必ラス本紙一通正寫一通都合二通宛タルヘシ

○國立銀行報告ノ事

第六十六條 國立銀行ハ銀行條例第七十六條ニ從

據シ紙幣頭差圖スル所ノ格式ニ從ヒ半季及ヒ毎月其銀行營業ノ實際報告ヲ製シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スルニ其報告ノ種類ハ左ノ如シ

但シ右報告用紙ハ相当ノ代價ヲ以テ紙幣寮ヨリ拂下クヘシ

第一 銀行半季考課狀

第二 銀行半季實際報告

第三 銀行利益金割合報告

第四 銀行半季平均高報告

第五 銀行年中平均高報告

第六 株主姓名表

右六種ノ報告ハ第一月十日第七月十日ヲ以テ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤モ遠隔ノ地方ニ本店又ハ支

店ヲ設置スル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ

第七 銀行本店毎月實際報告

第八 銀行支店毎月實際報告

右二種ノ報告ハ毎月五日マテニ紙幣頭へ差出ス
ヘシ尤遠隔ノ地方ニ設置シタル銀行ハ其郵便日
數ヲ宥恕スヘシ但シ支店毎月報告ハ其本店ヲ經
ルニ及ハス其支店ヨリ直チニ紙幣頭へ差出スヘ
シ右ノ外紙幣頭ノ考按ニヨリ臨時實際ノ報告ヲ
差出サシムルコトアルヘシ尤右臨時報告ノ差出方
ハ其時々紙幣頭ヨリ命スヘシ



